SSK　1971年6月17日　第三種郵便物認可 2023年3月14日発行〈毎月6回1の日・6の日発行〉SSK増刊通巻5864号

あゆみ

東腎協の50年

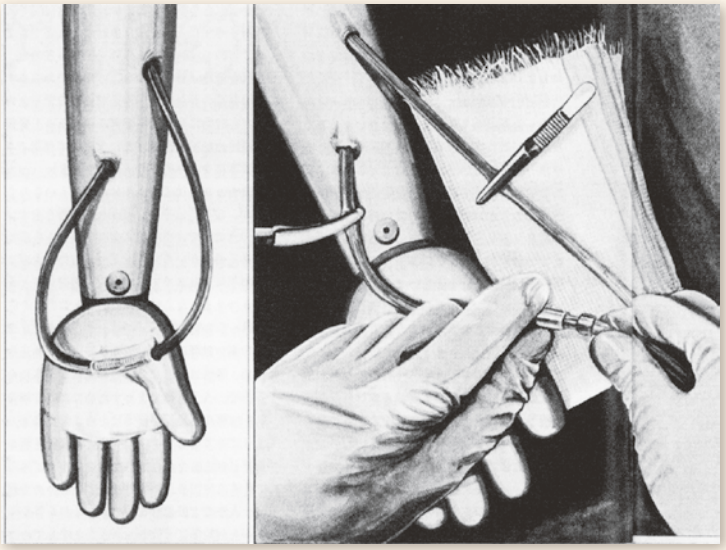
1972 ― 2022

別冊 **東腎協**

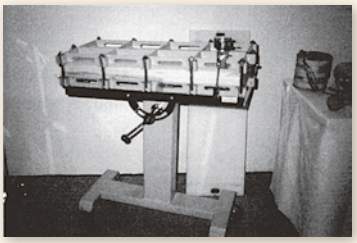
特定非営利活動法人 東京腎臓病協議会
（NPO東腎協）

人工腎臓のはじまり

人工腎臓が日本で臨床応用されたのは１９５５年（昭和30年）、１９５６年（昭和31年）には腹膜還流で患者が救命され、１９６４年（昭和39年）にはじめての生体腎移植が行われた。



外シャント（左側、血液透析を行わない時）
外シャント（右側、人工腎臓の回路と結合し、血液透析を行う準備中）



キール型人工腎臓

コイル型人工腎臓

1967年（昭和42）年12月に人工透析は健康保険の適用になったが、それ以前には医療費を捻出するために貯金を切り崩し、退職金の前借り、財産を売り払い、金の切れ目が命の切れ目となった悲惨な状況を解決の為に患者が立ち上がる事になった。

東京都腎臓病患者連絡協議会（東腎協の前身）結成

１９７１年（昭和46年）全国腎臓患者連絡協議会（以下「全腎協」と言う）が結成され、翌年１９７２年（昭和47年）東腎協が結成され活動をスタートした。「いつでも、どこでも、誰でもが必要な時に治療（人工透析）がうけられる」ことを目的に患者会活動の三つの役割を柱に活動に取り組んだ。

東腎協初代会長・寺田修治さん（右端、1972年11月19日の結成大会で会長に就任）

1972（昭和47）年11月19日、東京都腎臓病患者連絡協議会（東腎協の前身）を結成。

人間のくさり都庁包囲行動

1999年（平成11年）7月東京都は「財政再建推進プラン」を発表、続いて「福祉施策の新たな展開」を発表した。その内容は、マル障は①所得制限の強化②自己負担の導入③新規65歳以上を対象外とする。心身障害者福祉手当は①所得制限の強化②新規65歳以上を対象外とする、などの厳しい内容のもで、住民税非課税を除き老人保健並みの自己負担となり、所得制限を越えた人や65歳以上の新規透析患者はマル障の対象外となった。

翌2月23日の「座り込みと人間のくさり都庁包囲行動」には高齢者、障碍者団体と一緒に東腎協からも60人が参加した。

厚労省座り込み

全腎協結成直後、全腎協代表が予算要請行動で官庁街をデモし、厚労省座り込みをおこなった。東腎協からも多くの会員が参加した。

東京都議会の各党と懇談・ヒアリング

東腎協は毎年東京都に「翌年度予算要請」を行っています。単一疾病患者団体で正式な要請・回答を得ているのは東腎協だけです。

全腎協の国会請願

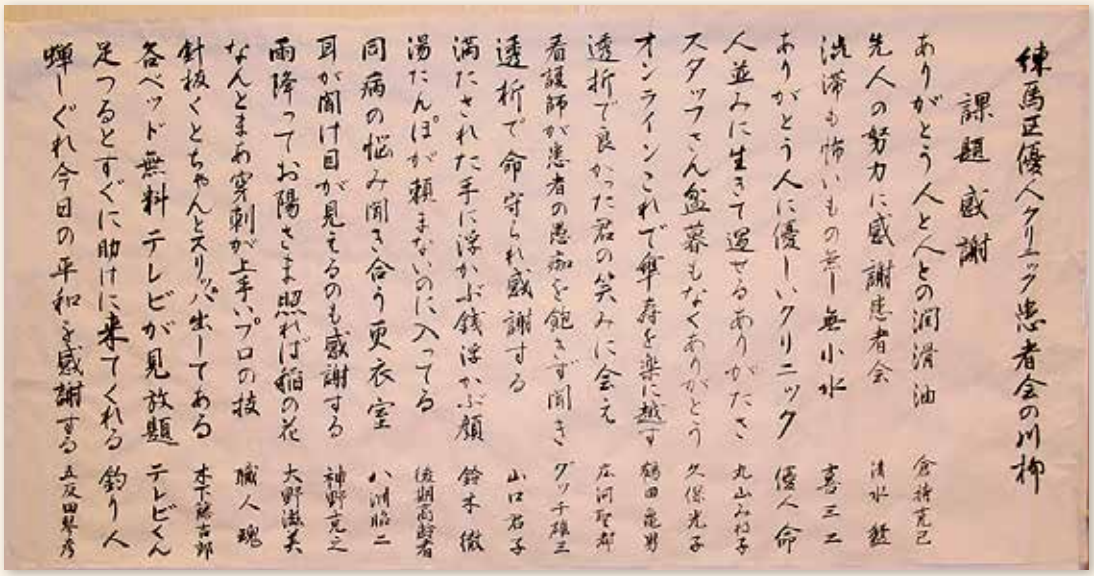
全腎協主催の「国会請願署名」は毎年取り組まれ、２０２２年には第52次を迎えました。

腎臓病の早期発見、早期治療、「いつでも、どこでも、だれでも」が安心して透析を受けられる社会の維持、高齢化対策、災害時対策、臓器移植の普及推進などを目指して取り組まれてきましたが、年々署名数は減少しています。私たちの声を届ける「国会請願署名」活動は今後も継続して取り組むべき重要な活動です。

東腎協大会

東腎協会員全体の交流・学習の場である東腎協大会は、第3回（2013年）から第10回（2022年）まで毎年開催されました。多くの会員さんから俳句・写真・絵画などの作品が寄せられた文化展や、バンド演奏、演出家の中村龍史さん（故人）のライブステージも開催されました。

全員でとりあえずビールの合唱　第6回大会



課題 感謝

ありがとう人と人との潤滑油　倉持克己
先人の努力に感謝患者会　清水益
洗濯も怖いもの無し無小水　喜三二
ありがとう人に優しいクリニック　優人命
人並みに生きて遅せるありがたさ　丸山みね子
スタッフさん盆暮もなくありがとう　久保光子
オンラインこれで寿命を楽に越す　鶴田龍男
透析で良かった君の笑みに会え　広河聖都
看護師が患者の愚痴を飽きず聞き　グッチ雅三
透析で命守られ感謝する　山口君子
満たされた手に浮かぶ銭ほかぶ顔　鈴木徹
湯たんぽが頼まないのに入ってる　後期高齢者
同病の悩み聞き合う更衣室　八洲昭二
耳が聞け目が見えるのも感謝する　神野克之
雨降ってお陽さま照れば稲の花　大野滋美
なんとまあ穿刺が上手いプロの技　職人魂
針抜くとちゃんとスリッパ出してある　本下鶴吉郎
各ベッド無料テレビが見放題　テレビくん
足つるとすぐに助けに来てくれる　釣り人
蟬ぐれ今日の平和を感謝する　五反田琴彦

東腎協結成記念大会・祝賀会

東腎協結成大会・祝賀会は10年ごとに開催されました。50周年記念大会は2022年10月30日（日）に主婦会館プラザエフ（四谷）で記念式典と記念講演が行われました。

腎臓病を考える都民のつどい

1987年（昭和62年）11月22日、第1回「腎臓病を考える都民の集い」が東腎協結成15周年記念事業の1つとして開催された。2023年3月12日には第34回の「都民のつどい」が開催された。

都民を対象に毎年開催される「都民の集い」
（1990.11.25）

臓器移植普及推進キャンペーン

1987年10月18日、腎移植推進キャンペーンを開催し、東京都が始めてこの事業を予算化した。このキャンペーンは、東京都、東京都医師会、東腎協の三者により開催した。

第40回
臓器移植普及推進キャンペーン
井の頭恩賜公園
2022/10月2日日
臓器移植推進 グリーンリボンパレード に参加しよう
2022/10月16日日

及推進キャンペーン
臓器移植普及推進キャンペーン

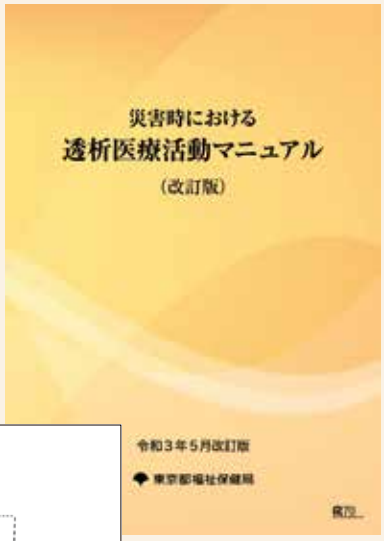
臓器移植普及推進
グリーンリボンパレード

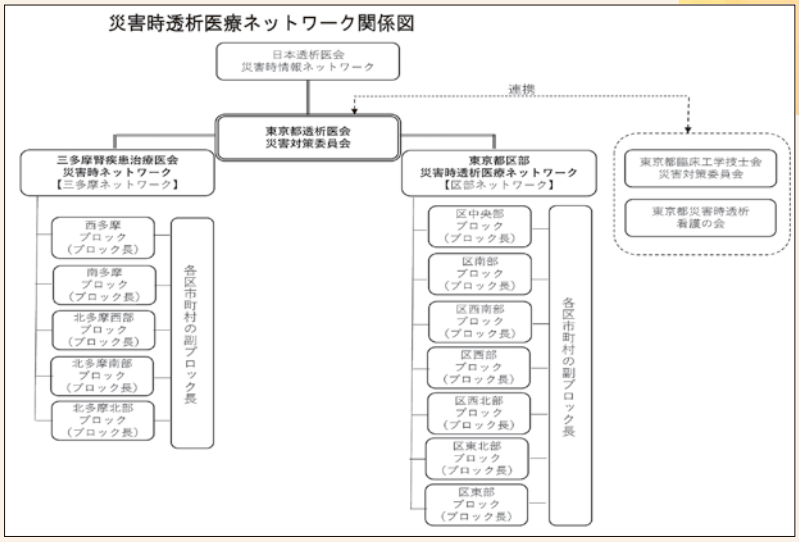
「臓器移植推進グリーンリボンパレード」は２０１８年から再開され、２０２２年10月16日（日）ＮＰＯ法人グリーンリボン推進協会の主催、厚労省、東京都、日本臓器移植ネットワーク、日本移植学会の後援、青山学院大学学友会吹奏楽バトントワリング部の協力で日比谷公園→中央区銀座→八重洲銀治橋跡までパレードを行いました。

透析患者の災害対策

1997年（平成9年）東京都福祉保健局から「災害時における透析医療活動マニュアル」が発行された。2021年（令和3年）には第5版が改訂発行された。

大島被災地





患者さん同士の交流会、学習会

東腎協には施設（病院）患者会会員と個人会員があります。施設患者会では旅行会や親睦会、また、ブロックでは個人会員を交えた学習会や交流会など多彩な行事が行われています。

親睦会

関東ブロック会議

会員交流会

学習交流会

多摩ブロック　学習会

東部ブロック　料理講習会

関東ブロック青年交流会

関東ブロック青年交流会

スキー旅行

患者会旅行会

お花見の会＆ＢＢＱ（昭和記念公園）

お花見の会＆ＢＢＱ（昭和記念公園）

患者会忘年会

透析40年を記念して

東京歩こう会（高尾山）

東京歩こう会（神宮外苑）

津軽三味線を聴く会

多摩ブロック会員交流会

50周年にあたり深く感謝いたします

特定非営利活動法人 東京腎臓病協議会 会長 戸倉 振一

１９７２年11月、特定非営利活動法人東京腎臓病協議会（東腎協）の前身である東京都腎臓病患者連絡協議会が結成され、腎臓病患者の「命と暮らしを守る」を合言葉とし、その時々の腎臓病患者における課題解決に向けた取り組みを進め、お陰様で本年度50周年を迎えることができました。半世紀にわたり当会の活動を支えて頂きました会員の皆様、透析医療の向上にご尽力されました医療関係者の皆様、透析患者の生活を支えて頂きました福祉関係の皆様、透析医療や福祉に深いご理解とご支援を頂きました議会、行政、都民の皆様に深く感謝いたします。

我が国で、人工透析が医療保険適用となったのは１９６７年です。当時は透析台数も少なく、透析が受けられる人は限られ、透析ができても健康保険本人以外は高額な医療費負担で、「金の切れ目が命の切れ目」と言われていました。こうした状況の中、「いつでもどこでもお金の心配をすることなく安心して透析が受けられる」ことを目指し、当会結成の前年の１９７１年６月に全国腎臓病患者連絡協議会（現、一般社団法人全国腎臓病協議会）が結成されました。当時の患者たちのまさに命をかけた活動により、１９７２年10月から人工透析に更生・育成医療が適用され、それにより透析医療が普及していきました。その後、各都道府県に腎臓病患者の組織化が行われ、東京においても全国の仲間と共に、安心して人工透析が受けられるような各種制度確立のための活動を推進してきました。また、腎臓病の予防から、透析患者の就労、通院、介護の問題、臓器移植や再生医療の推進、災害時の透析医療の確保等の腎臓病に関わる総合的な対策の早期確立を目指し活動を継続してきました。

この間に多くの仲間が志半ばで他界していきました。その思いを引き継ぎながらこれからも活動を継続していくため、この50年を振り返り初心に戻り活動を進めていくため、50周年記念誌「あゆみ」及び別冊として漫画で見る「東腎協の50年」を発行する運びとなりました。これまでの足跡を振り返るとともに、50周年事業として行った全会員を対象とした実態調査により明らかとなった課題解決に向け、東京都の行政の皆様、東京都透析医会、東京都区部災害時透析医療ネットワーク、三多摩腎疾患治療医会、腎臓サポート協会の先生方のご支援を頂きながら、活動を進めてまいります。また、東京難病団体連絡協議会の加盟団体の皆様と連携し難病患者の医療と福祉の向上に取り組んでまいります。

最後になりましたが、50周年事業にあたりご支援をくださいました、日本腎臓財団様、透析施設様、企業様、患者会、会員の皆様に深く感謝を申し上げます。

目次

写真で見る東腎協の歴史……1
発刊にあたって（ＮＰＯ東腎協会長）……17

ご寄稿 19

遠藤　善也さん（東京都福祉保健局保健政策部長）……20
安藤　亮一さん（東京都透析医会会長）……21
花房　規男さん（東京都透析医会災害対策委員会委員長）……22
酒井　　謙さん（東京都区部災害時透析医療ネットワーク代表世話人）……23
菊地　　勘さん（東京都区部災害時透析医療ネットワーク代表世話人）……24
要　　伸也さん（三多摩腎疾患治療医会理事長）……25
原田　久生さん（東京難病団体連合会理事長）……26
雁瀬　美佐さん（腎臓サポート協会理事長）……27
池田　　充さん（全国腎臓病協議会会長）……28

結成50年　先人への感謝と笑顔で暮らせる未来へ 29

この10年の主な活動報告　２０１３年～２０２２年まで 41

資料 49

東腎協歴代役員……50
ＮＰＯ東腎協に入会している透析施設　患者会一覧……57
50年以上透析会員のお名前……58
40年以上透析会員のお名前……58
30年以上透析会員のお名前……59
透析診療報酬の変遷（表）と東腎協の活動年表……60
ご寄付一覧……62
編集後記……65

ご寄稿

今後の腎臓病医療の進歩と東腎協の発展を祈念して

東京都福祉保健局　保健政策部長　遠藤 善也さん

特定非営利活動法人東京腎臓病協議会が結成50周年を迎えられましたことを心よりお喜び申し上げます。

昭和47年の発足以来、50年にわたり、会員の皆様が相互にサポートし、また交流を図りながら、腎疾患の総合対策の確立の早期実現にむけ、たゆまないご努力を重ねてこられ、また、腎臓病とその予防についての普及啓発や臓器移植の推進活動など、多大な社会貢献を果たしてこられたことに、あらためて深い敬意を表す次第でございます。

貴会が実施されている様々な活動の中でも、「腎臓病を考える都民の集い」においては、当事者の立場から腎臓病の早期発見・早期治療の重要性を広く都民へ呼びかけていただいたり、「臓器移植キャンペーン」では臓器提供意思表示カードを配布していただいたりと、重要な取り組みを行っていただき、感謝申し上げます。

東京都では、特殊な医療技術の管理の下で長期の療養を余儀なくされる人工透析の患者さんに対し、都の独自事業として人工透析医療費助成制度を行ってまいりました。貴会が結成された年と同じく昭和47年より本医療費助成制度を開始し、現在は、約3万人の患者さんに対して人工透析の医療費助成を行っております。また、近年相次ぐ大規模災害での経験を踏まえ、災害時に透析患者さんへのより適切な支援が行えるよう、令和3年5月に「災害時における透析医療活動マニュアル」を改訂いたしました。

令和2年より続くコロナ禍においては、医療機関の協力を得ながら、透析患者さんの適切な医療提供体制の確保に向けて取り組んでいるところでございます。

引き続き、このような療養にかかる経済的負担軽減策や災害対策に取り組むと共に、腎臓病の早期発見・早期治療に向けた普及啓発を通じて重症化予防に取り組んでまいります。

最後になりましたが、今後の腎臓病医療の進歩と、貴会の益々のご発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

【略歴】えんどう　よしや

平成7年に東京都庁に入都。平成22年より東京都福祉保健局総務部、指導監査部、医療政策部等で課長を歴任。その後、健康安全研究センター企画調整部長、子供・子育て施策推進担当部長、事業推進担当部長、新型コロナウイルス感染症対策調整担当部長を経て、令和4年7月より保健政策部長。

東腎協50周年によせて

東京都透析医会 会長　安藤 亮一 さん

東腎協設立50周年おめでとうございます。東京都透析医会会長として、ひとことお祝いを述べさせていただきたいと思います。

東腎協は50年前に「腎臓病に関する正しい知識普及と予防啓発」と「腎臓病患者の医療体制の充実と福祉向上」を目的に設立された腎臓病患者の団体であり、腎疾患総合対策の確立を目指して活動し、様々な成果をあげてきたことに敬意を表します。

腎臓病治療とりわけ透析療法に関する課題は山積していると思います。多発する災害に対する透析医療の継続、新型コロナウイルス感染対策、医療費改訂による透析関連の保険点数の引き下げへの対応なども当面の重要な課題です。これらの課題に対して、日本透析医会をはじめとした医療系の団体が対応していますが、今の時代は、医療者だけでなく、患者さんとともに課題に立ち向かうことがますます求められています。医療そのものが、患者参加型となり、治療方針を決めるにあたっては、患者さんや家族も医療者からの適切な情報提供を参考にして、意思決定に中心的な役割をもつような共同意志決定も腎臓病の診療分野において浸透しつつあります。

東京都透析医会は、日本透析医会の40番目の都道府県支部として2018年1月に設立した、まだ歴史の浅い団体です。その主な目的は、透析療法の向上発展に努め、東京都の透析治療に貢献することです。そして、最も力をいれている事業である災害対策に関しては、災害対策委員会に東腎協の戸倉会長をはじめ患者さんにも参加いただいています。昨年東京都から発行された「災害時における透析医療活動マニュアル」改訂にも際しても多大なご協力いただきました。また、新型コロナウイルス感染症に対しては、リスクの高い透析患者さんを守るべく、行政機関とも連携して、感染対策の徹底や病床の確保とともに情報提供にも力を注いでおります。東京都には、全国の透析患者さんの約1割に当たる方が療養しております。東京都から、腎臓病対策を患者さんとともにさらに推進していくことが重要だと考えています。

昨今の透析の長期化、高齢化による患者さん方の身体機能の低下、そして新型コロナウイルスの拡大と腎臓病患者さん方にとっては、試練の日々が続いていますが、東腎協の皆様のご健勝とご発展を祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。

【略歴】あんどう　りょういち

1979年3月東京医科歯科大学医学部卒業。2003年6月～武蔵野赤十字病院内科部長（腎臓内科）。2016年7月～武蔵野赤十字病院副院長内科部長（腎臓内科）。2022年4月～医療法人社団石川記念会顧問。

日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医・名誉会員、日本透析医会常務理事、日本腎臓財団評議員、東京都透析医会会長

東腎協50周年によせて

東京都透析医会災害対策委員会 委員長　花房 規男さん

50周年まことにおめでとうございます。

東京都には、全国の透析を受けられている方のおおよそ1割の方が住まわれています。そのように、大勢の方が東京都で透析を受けられているわけですが、その方々の団体として、東腎協が長年にわたって活動を続けてこられていることに、深く敬意を表します。透析治療においては、様々な治療法が開発されてきている一方、今回の新型コロナウイルス感染、さらには、診療報酬の改訂など様々な課題が存在することも事実です。そのようななか、皆様の団結の結果、現在のように安定した透析を受けることが可能となっていると考えております。

我が国の、透析に関わる医師の団体として、日本透析医会があります。その下部組織として、２０１８年に東京都透析医会が設立されました。東京を中心とする関東では、首都直下型地震がこれから30年の間に70％の確率で発生することが予測されており、大きな懸念として存在します。さらには、地球温暖化の関与もあり水害のリスクも高まってきています。こうした、災害が多発する時代において、それに対応するため、東京都透析医会では、災害対策委員会を設置して対応に当たっています。

従来、東京都においては、東京都区部災害時情報ネットワーク、三多摩腎疾患治療医会の二つの組織が、それぞれの地域において、災害対策を長年にわたって取り組んでこられています。東京都透析医会では、東京都全体を包括する取り組みとして、透析施設間の平時・有事の情報伝達のシステムとしてのＤＩＥＭＡＳ（緊急時透析情報共有マッピングシステム）の構築や、東京都福祉保健局の「災害時における透析医療活動マニュアル」の改訂への参画などを行ってまいりました。このように、医療者間での情報共有の取り組みが徐々に進んできています。しかし、災害時に透析医療を継続するためには、透析を受けられている方々との連携が不可欠です。従来も戸倉会長には、災害対策委員会にメンバーとして参加いただいていて、様々なご意見を頂いて参りました。同じ東京都全体をカバーする組織として、東腎協の方々との連携は不可欠と考えております。平時・有事とも、安定した透析を行うために、東腎協とのより強固な協力体制の構築をすすめてまいりたいと考えております。

次の50年に向けて、ますますのご発展と、充実した会となりますことをお祈り申し上げます。

【略歴】はなぶさ　のりお

１９９４年東京大学医学部医学科卒。東京女子医科大学腎臓病総合医療センター血液浄化療法科准教授。２００２年～東京大学医学部附属病院血液浄化療法部。２０１３年～東京大学医学部附属病院腎疾患総合医療学講座　特任教授。

東腎協結成50周年記念によせて

東京都区部災害時透析医療ネットワーク 代表世話人 酒井 謙さん

東腎協は50周年を迎えられ、これまでのご努力に感謝申し上げます。

その時代（１９８０年代）は透析の個人用装置は今より大きく、外シャントの方もおられました。まだＥＳＡ（造血刺激製剤）がなく、各透析施設で定期的な輸血が行われていました。造血には男性ホルモン製剤も使用されていました。その後ＥＳＡはＨＩＦＰＨ阻害薬という内服薬に変わりつつあります。またＣ型肝炎が減少、透析液の水質基準は格段に改善しました。血液透析濾過は普遍的な治療となりました。

コロナ感染では、菊地勘先生を中心に統計・啓発・治療勧奨が行われ、巧断の努力により今の小康を保つに至りましたが、いまだ透析患者さんの重症化率は高く、４回目接種が推奨される所以です。来るべき震災に加えまして、東京都では水害ハザードマップが整備されました。地下電源を守るなど、新たな課題も出てきています。都区部災害時透析医療ネットワークでは三多摩腎疾患治療医会と協力し、東京都透析医会のもと、本年も災害時透析医療の備えを進めてまいります。

２０２２年度診療報酬改定では、在宅医療推進（腹膜、在宅血液透析、腎移植）に重点が置かれました。透析時運動等指導加算が入りリハビリも重視されました。「いつでもどこでも誰でも安心して透析を受けられる医療体制」の継続に鑑み、昨今話題のＣＫＭ（保存的腎臓療法）においても、まず透析医療の益を重ねてお話しすることを念頭に、「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」が纏まりました。本提言（日本透析医学会２０２０）は、全腎協からも作成過程に参加いただきました。

今後の方針は、感染症予防、腎臓病重症化予防、介護保険施設へのアクセス、高齢透析患者通院手段確保、広域災害対策、腎移植再生医療推進です。特に移植推進は、今回の診療報酬改定の大きな部分と認識しています。

１９４５年に発明された人工透析ですが、朝鮮戦争の野戦病院で行われた「人工透析」によって、死亡率が90％から50％に低下したというＳｍｉｔｈ.Ｓｈａｗらの結果に世界の注目が集まり、透析は急性腎不全の画期的治療法として位置付けられました。兵士・市民を助けた人工透析は、ウクライナでは他国侵攻によりその回数の減少が生じています。

首都東京は全国の透析患者さんの10％が居住しておられ、東腎協の皆様の発信は大変重要です。50周年、誠におめでとうございます。これからもどうぞよろしくご指導ください。

【略歴】さかい　けん

２０２１年～東邦大学大森病院副院長（腎センター診療部長）。日本透析医会理事。日本透析医学会理事。

東京都腎臓病協議会 設立50周年のお祝い

東京都区部災害時透析医療ネットワーク 代表世話人　菊地 勘さん

設立50周年記念おめでとうございます。50年前に、東京都の人工透析を受ける慢性腎臓病の患者団体として結成、これ以来、透析医療の向上や合併症対策、災害対策などに取り組んでこられたこと、感謝とともにこの歴史の重みを感じます。

我々、東京都区部災害時透析医療ネットワークは、２００５年に設立させていただき、本年で18年目を迎える団体です。東京都区部（23区）における災害時の透析医療を円滑に行うために、患者様の自助を促すことや災害の知識を共有するための区民公開講座の開催、各透析施設が災害時透析医療を行うための知識や技術を共有する研修会、各区や各ブロック（２次医療圏）の災害担当医療従事者との情報伝達手段の提供や訓練を行い共助の推進、行政との定期的な会議により公助の確立、これらを活動の目的としております。

また、２０２０年より発生した新型コロナウイルス感染症においては、東京都腎臓病協議会の会員の皆様におかれましては、感染症対策や新型コロナワクチン接種、感染時の透析医療の継続など、非常にご心配や苦労をなさったことと思います。

我々、東京都区部災害時透析医療ネットワークは、災害対策だけではなく、感染症対策にも非常に力を入れております。私は、東京都の透析医療アドバイザーとして、透析患者様の新型コロナウイルス感染症対策に、行政とともに連携して取り組んでおります。会員の皆様におかれましては、何かお困りのことがございましたら、東京都腎臓病協議会を通じてご連絡ください。

東京都区部災害時透析医療ネットワークの設立以来、東京都腎臓病協議会とは連携して、平時から災害対策や感染症対策に取り組んで参りました。今後も連携をより強固にして、透析医療の発展や災害対策や感染症対策など透析医療の環境整備に取り組んで参りたいと思います。

最後に、今後ますますの東京都腎臓病協議会のご発展をお祈して、お祝いの言葉とさせていただきます。

【略歴】きくち　かん

１９９８年杏林大学医学部卒業。２００６年東京女子医科大学血液浄化療法科助教。２００４年医療法人社団豊済会理事長、下落合クリニック院長。日本透析医学会学術委員会、日本透析医会医療安全帯対策委員。日本肝臓学会、日本腎臓学会、日本腹膜透析学会。

【主な所属学会】

公益社団法人　日本透析医会　理事
一般社団法人　日本透析医学会　理事
特定非営利活動法人　日本腎・血液浄化ＡＩ学会　理事

東腎協設立50周年によせて

一般社団法人三多摩腎疾患治療医会　理事長　要 伸也さん

このたびは東腎協設立50周年おめでとうございます。

１９７３年の設立当初から、長年に渡って透析患者さんを支える活動を継続し、幅広く展開して来られたことをお慶びいたしますとともに、心から敬意を表する次第です。

私が所属する杏林大学は多摩地区にあり、同時に、三多摩腎疾患治療医会の事務局となっています。三多摩腎疾患治療医会には１１０を超える多摩地区の腎臓病・透析専門施設が属し、研究会のほか、災害対策、感染対策、ＣＫＤ対策を含む４つの事業に取り組んでいます。このうち災害、感染対策につきましては、東京都透析医会とも連携しながら対策を進めています。言うまでもなく、地震や集中豪雨などの災害時、新型コロナウイルス感染症等の感染症の流行時には、透析患者さんは難しい状況に置かれます。医療関係者と患者さんが連携して対処してゆくことが極めて重要であり、患者会である全国腎臓病協議会、東京腎臓病協議会の役割はますます重要になっていると思われます。昨年の東京都透析災害時マニュアル改訂におきましても、患者さんの立場から重要なご提言をいただきました。

さて、最近の医療の進歩により、透析医療は単に生命維持にとどまらず、よりよい生活の質を求める新たなステージに入っています。貴会は、理念として「腎臓病に関する正しい知識の普及と予防、腎臓病患者の医療体制の充実と福祉の向上を図る」を掲げられています。２０１８年、厚生労働省から、わが国のＣＫＤ対策の指針となる「腎疾患対策検討会報告書」が10年ぶりに発表されましたが、全体目標として、ＣＫＤの重症化予防とならんでＣＫＤ患者のＱＯＬの維持向上が挙げられており、今回はじめて、ＣＫＤ患者には透析、腎移植患者も含まれることが明記されました。貴会の、透析患者さんの「命と暮らしを守る」というポリシーが反映されたものと存じます。さらに、最近私が感銘を受けたのは、貴会が、透析医療だけでなく、腎移植の推進活動、さらには保存期腎不全患者の透析予防活動も支援されていることです。このような保存期腎不全患者に対する教育支援は、ひいては透析患者さんの生活の質の向上にも繋がると思われ、貴会の大局的視点にあらためて敬意を表したいと思います。

今後は、貴会とより緊密に連携を取り合い、協力して透析医療の充実に務めて参りたいと思っております。

以上、貴会のますますのご発展を祈念して、私からのお祝いの言葉に代えさせていただきます。

【略歴】かなめ　しんや

１９８３年　３月東京大学医学部医学科卒業。２０１４年～杏林大学医学部腎臓・リウマチ膠原病内科教授。２０２０年～同医学部付属病院副院長。日本透析医学会・日本リウマチ学会の専門医・指導医。三多摩腎疾患治療医会理事長、東京都透析医会監事。

東腎協創立50周年のお祝いメッセージ

NPO法人東難連 理事長　原田 久生さん

特定非営利活動法人東京腎臓病協議会の戸倉振一会長はじめ会員の皆様、創立50周年、誠におめでとうございます。長きにわたって、腎臓病患者の療養環境の整備、向上に活動されてきた皆様に、心より敬意を表します。誠に僭越ながら、東腎協と東難連は、この50年、ともに難病及び慢性疾病対策の歴史の中で、絆を深めてきたと言うことができると思います。

昭和47（１９７２）年に、国が、ベーチェット病・重症筋無力症・全身性エリテマトーデス・スモンの４疾病を難病指定し、東京都が「人工透析を必要とする腎不全」を、都単独事業とした年の５月１日に、東京都腎臓病患者連絡協議会をはじめとする12団体により、東京難病団体連絡協議会が設立されました。設立当時から、東腎協の平澤三吾氏が、昭和51（１９７６）年に東難連の第２代会長に就任され、昭和63（１９８８）年10月20日に亡くなるまで、12年間活躍され、その間、昭和62（１９８７）年に、東京都衛生局長から、東難連会長在位10年の表彰を受けられました。その後、東腎協の草間和男氏は、東難連副会長として、平成４（１９９２）年の、東難連会報の「設立20周年特集号」の編集委員長を務められました。その後も、東腎協の北爪勇氏が平成10（１９９８）年に東難連の第４代会長に就任され、「難病患者実態調査報告」を纏め、「難病対策の見直しに関する要望書」を、国や都に提出され、平成14（２００２）年まで、会長を務められました。その後、東腎協の田中助成氏が、平成15（２００３）年に、ＮＰＯ法人東難連の第２代理事長に就任され、平成17（２００５）年に、「第57回保健文化賞」の受賞の際は、北爪勇元会長もご招待されました。また、平成30（２０１８）年に、東腎協の榊原靖夫氏が第５代理事長に就任され、令和４（２０２２）年１月７日に亡くなるまで務められました。その後を受け、私、原田が第６代理事長となった次第です。

去る５月29日に行われた東難連定時総会は設立50周年記念と法人設立20周年記念を兼ねたものでした。これを機に、東京都ピア相談室事業だけでなく、難病相談会や難病講演会等の本来の東難連事業をできる組織作りを喫緊の課題としました。また東京の地にある東難連の役割と責任は重く、地域の活動にとどまらず、全国に新しい情報を発信することも考えていきたいと思います。そして加盟団体の皆さまと皆保険制度を堅持し、福祉、社会保障の内容充実を図り、患者中心の医療体制を進めていく所存です。

【略歴】はらだ　ひさお

東京在住、１９４９年１月25日生、73歳。２０１２年10月「全国ファブリー病患者会」会長就任　国内海外活動に入る。その後、厚労省患者申出療養会議の初代構成委員等を務め２０１７年日本ライソゾーム病患者家族会協議会設立代表理事に就任。現在に至る。

いのちをつないだ50年のあゆみに感謝

NPO法人 腎臓サポート協会 理事長　雁瀬 美佐さん

東京都腎臓病協議会様、50周年おめでとうございます。

また、50年もの長きにわたり、人工透析を受ける腎臓病患者さまの療養環境の整備・向上のためにご尽力を重ねてこられましたことに心より敬意を表します。

当協会は、２００１年に設立以来約20年間、前松村満美子理事長のもと、腎不全を病む患者さんたちのＱＯＬ（生活の質）を高めるための、腎臓疾患療法に関する情報提供とその普及活動を行ってまいりました。昨年より理事長を拝命し、今後もより一層、御団体と協働し、慢性腎臓病対策への環境整備や啓発をさせていただきたいと考えております。

さて、私が腎臓病を知ったのは昔々の小学校時代に遡ります。同級生のご家庭に腎臓の悪い女の子がいました。小学校2年生の時に麻疹（はしか）にかかり2年後に腎不全と診断されたそうです。そのお姉さまも腎臓が悪く、当時治療法を見つけられないまま5歳で亡くなっていらしたので、ご両親は二度とその悲しみを引き起こさないために、都内の大学病院の一室で初めての子ども用キール型透析器を導入されたり、海外のあらゆる先進的医療の情報を集め、当時日本ではまだ行われていなかった献腎移植を目的にアメリカに渡り、結果的に生体移植と献腎移植を実施されました。ご家族ご親戚が中心となり、周囲の方々も含めて総出で一生懸命に生活を見守り看護されていました。その後、再び透析に戻られて18年間の闘病の末、24歳で亡くなられましたが、その訃報を新聞の特集記事で知ったことを今でも鮮明に覚えています。ご両親は、この壮絶な病との闘いを今後の腎臓病患者さんのためにと記録し、出版や啓発活動をされていました。

このように、透析や移植の黎明期を経て、今があります。透析患者さんが34万人を超え、決して看過できませんが、医療機器や技術、治療は格段に向上し、様々な社会制度や互助によって、仕事や出産等もでき、長く生きられる時代にもなりました。これまでの半世紀、患者さんやそのご家族が自らの挑戦や失敗を無駄にせず、仲間や他の患者さんのために取り組んでいらしたからこその今であると思います。

患者団体の活動をされてきた方にインタビューをした時、頂いた言葉が忘れられません。

「多くの腎不全患者が命を懸けて活動してきたからこその今があることを忘れないでほしい」

貴会の益々のご発展を祈念しております。

【略歴】がんせ　みさ

薬剤師。製薬会社勤務を経て、メディカルジャーナリストとして活動。１９９７年10月より（公社）日本臓器移植ネットワークに勤務し、広報および臓器移植医療の普及啓発に努める。２０２１年４月よりＮＰＯ法人腎臓サポート協会理事長、現在に至る。

東腎協50周年に寄せて

一般社団法人全国腎臓病協議会 会長　池田 充さん

東京都腎臓病協議会様におかれましては、平素より東腎協としての活発な活動はもとより、当会の活動につきましても、多大なご理解とご支援を賜り、厚く感謝申し上げます。

また、このたび貴会が結成50周年を迎えられたとのお知らせに接し、この間に歩んでこられた困難さに思いを巡らし、これまでに携わられた役・職員の方々及びそれを支えた会員の皆様方に深く敬意を表する次第です。

一口に50年と申しましても、わが国で人工透析治療がはじまったのが50年少し前です。しかし、当時の透析能力は現在より格段に低く、十分な透析効果が上がらず、かつ厳しい飲食制限を強いられたそうです。そもそも透析機が国内に数百台しかなく、したがって全国にあるわけではなく、透析を受ける人を決めるのに、収入、性別などが優先されるという状況だったそうです。

その為、総合的な慢性腎臓病対策を求めて都道府県協議会が次々と発足し、軌を同じくして当会も発足し、先ごろ50周年を迎えたところです。当時は「いつでも、どこでも、誰でも透析を受けられる社会の実現」をスローガンに腎友会活動が展開されました。すなわち当時は、必要な時に透析が開始できず、地域的に透析の可不可があり、収入あるいは性別によって患者が選別されていたのです。そしてせっかく透析を開始しても、1年後の生存率は約50％、5年後の生存率は約10％と厳しい治療だったのです。そのような中で、現在透析歴50年を超す方々が全国に10名いらっしゃいます（当会調べ）。そして、先頃開催した当会創立50周年記念式典における50年長期透析表彰の場に、貴会の2名の会員様が登壇し、会場にご参列の皆様の賞賛を浴びておられました。お二人は、50年前の透析を経験し、自己管理に努められ、貴会並びに当会の50年の歩みを見守り、活動に参加されてきたことと存じ、改めて敬意と感謝を申しあげます。

最後に、貴会の今後ますますのご発展を祈念するとともに、当会活動へのさらなるご協力をお願いし、簡単ですが東腎協様50年に向けて私の言葉といたします。

【略歴】いけだ　みつる

全国腎臓病協議会役員歴

2021年6月～　北越ブロック担当理事

2021年12月～　副会長、北越ブロック担当理事

2022年6月～　会長、北越ブロック担当理事

結成50年先人への感謝と笑顔で暮らせる未来へ

結成50年 先人への感謝と笑顔で暮らせる未来へ

～東腎協の歴史と新たな課題への取り組み～

特定非営利活動法人東京腎臓病協議会（以下「東腎協」と言う）は２０２２年結成50周年を迎えました。結成以来行政、医療従事者、介護従事者をはじめ多くの関係者様のご支援を賜るとともに私たちの先人やそのご家族の活動により本年を迎えることができました。

東腎協は、腎臓病患者が活動する当事者団体です。活動していく中で多くの仲間が亡くなり、また近年は、患者の高齢化なども背景に、結成当時を知る「語り部」が少なくなっています。しかし、先人の命をかけた闘いをはじめ、医療保険制度や社会保障制度、療養環境の変遷は、途切れることなく未来へ語り継がれていかなければなりません。本書がそのための一助になることを願わずにはいられません。

人工透析を始めとする医療技術や薬剤などは50年間で大きく進歩し、誰もが必要な時に必要な治療が受けられる環境になりました。腎臓病が進行し慢性腎不全になると機能しなくなった腎臓に代わる代替治療が必要になり人工透析治療を開始します。多くの患者は、生涯続けなければならない治療に不安と失望で頭がいっぱいになったと思います。そのような状況の中では、人工透析機器の不足や医療費負担が出来ず治療を受けることなく亡くなっていった患者がいたことを想像することは難しく、残念ながら患者会活動に無関心を決め込む人が多い時代になりました。

人工透析が必要になれば誰もが治療を受けられる環境は、自然にできたものではありません。患者会活動を無理強いしませんが、**多くの患者に50年間の歴史を学び、患者会活動があったからこそ今日の治療環境があることを知ってほしいと思います。そして「笑顔で暮らせる未来」をつくるために過去から学び、患者会活動を未来に継続していくことが必要です。**結成50周年を機にこれまでの歴史をたどってみたいと思います。

日本の患者運動

日本の患者運動は、世界のどの国にもない独特の歴史をたどりました。戦前の結核やハンセン病の患者が自身の命を守るための活動にさかのぼることが出来ます。難病や障害による治療の苦しみや差別・偏見を味わう人が一人でも少なくなることを願い、患者・家族が自主的に活動をはじめ、地域から全国の活動へと進化しました。

「患者運動」（長宏著）の一節に〝ベッドの中からでて、ベッドの中にかえる〟という言葉があります。一人ひとりの患者が、毎日の生活を送るベッドの中から、「こうしてほしい」「ああしてほしい」という、直接の願いごとから出発し、その要求を実現するための組織的な運動に取り組み、その結果は一人ひとりのベッドの生活に実を

結んで表れなければならないことです。

現在私たち透析患者が透析中のベッドの中で不安に思うことや心配事の解決に取り組み、その結果はベッドで透析を行う患者の生活に実を結ぶことです。

1971年（昭和46年）全国腎臓病患者連絡協議会（以下「全腎協」と言う）が結成し活動をスタートしました。その活動に結核やハンセン病の患者運動が大きな影響を与えました。翌年1972年（昭和47年）東京都腎臓病患者連絡協議会（以下「東腎協」と言う）が結成し活動をスタートしました。東腎協、全腎協は、「いつでも、どこでも、誰もが必要な時に治療（人工透析）が受けられる」ことを目的に患者会活動の三つの役割を柱に活動に取り組みました。

患者会活動の三つの役割

①病気の科学的な把握　―病気の自覚―

②病気と闘う気概　―病気の社会性の認識―

③病気と闘う条件整備―療養条件の改善整備―（患者の権利としての生存権）

東腎協、全腎協は、それぞれ結成50周年の大きな節目を迎えた今日では、誰もが必要な時に人工透析が受けられる環境になり、人工透析治療技術も世界一と言われるまでになりました。「医療経済学」（二木立著）では、日本の人工透析の進歩に患者会活動が大きく影響していると記載されています。

人工腎臓の始まり

人工腎臓が日本で臨床応用されたのは1955年（昭和30年）、1956年（昭和31年）には腹膜還流で初めて患者が救命され、1964年（昭和39年）に初めての生体腎移植が行われました。

人工腎臓は、1967年（昭和42年）12月に医療保険の適用になりましたが、人工腎臓機器は圧倒的に不足していました。この頃の全国の透析患者数は215人で、1年生存率は50％未満でした。

人工透析が受けられても、自己負担の全くない患者は社会保険（サラリーマンや公務員など）本人だけで、当時の医療保険制度では、社会保険の家族は5割、国民健康保険（自営業者ら）は、3割の自己負担があり、その負担額は月に10万円から30万円にのぼりました。このため、その医療費負

担に耐えうる患者だけが透析治療を受けることが出来ました。

こうした状況下で、患者の悲劇的な事例は枚挙すれば限りがなく、**医療費を捻出するために貯金を使い果たし、家屋敷を売り払い、生活保護を受けるために離婚し、自らの命を絶つ患者もいました。**

「死」を意味した腎不全が人工腎臓の出現によって延命可能な疾患となり、社会復帰さえも可能になりつつある一方で、このような悲劇的患者の存在は、必然的にその解決のために患者を立ち上がらせることになりました。

その中で最初にできた患者会は東京のニーレ友の会です。ニーレ友の会は、1970年（昭和45年）2月に東京・日大板橋病院腎臓病棟で慢性腎炎の患者を中心に40名で発足しました。ニーレ友の会の会員であり、全腎協結成時の初代事務局長となった笠原秀夫は、その時の中心メンバーでした。笠原と同じく宝生和男もニーレ友の会のメンバーであり後に東腎協第3代目会長となり次のように述べています。

「数年前、板橋の日大病院には、腎臓病棟が別棟にありまして、一つのフロアーが、全て腎患者で占められ、常時50人から60人位がゴロゴロしていました。……この時にある事件がおきましてトンタ君という22歳の青年が急に腎不全になって、人工腎臓にかけなければ生命がおぼつかないような状態になりました。そこに両親が呼ばれまして、まず医療費が払えるかということになりました。驚いた両親が八方駆けずり回ったのですが、1回について5万円かかり、週2回として、22歳の若さで永久に使ってゆくとすれば、どれだけの費用になるかを考えますとどうにもならない数字でした。どうしたらいいのだとマゴマゴしているうちに、亡くなってしまいました。……これは、もう考えなくては大変だというのが、この会を始める動機であったわけです。」

ニーレ友の会は、結成当初は病院に対する要求活動を行っていましたが、次第に会員が増え、要求内容も、病院相手では解決できないこともありました。また、全国の患者・家族から連絡が入ることも多く、病院の患者会という範囲を超えて全国的な会に発展しました。会員は北海道から九州まで全国に存在しました。

1970年（昭和45年）5月、広島で人工透析患者が中心となって全国初の広島人工腎友会が発足し、愛知、富山、福島、兵庫など透析患者が多かった県で患者会が発足していき、医療機関単位の患者会も各地に組織されていきました。

全腎協の誕生

全国組織結成を呼びかけたニーレ友の会

は、準備から結成まで中心的存在になりました。各地の患者も呼応し、1971年（昭和46年）3月11日、東京を中心とする患者会の代表が集まり第1回の準備会を開催しました。当時の透析患者の肉体的条件（極度の貧血）から、全国組織結成の具体的な準備は首都圏の患者が担わざるを得ない状況でした。参加したのは、「ニーレ友の会」をはじめ五つの会の代表13人でした。各病院の患者の実情について意見交換され、笠原らが把握した各地の情報が報告されました。これらの情報交換によって全国の患者の声を結集し、全国組織を結集することが全員の固い意志として確認されました。準備会は4回開催し、結成総会に向けて具体的な準備を進めました。

こうして全腎協は1971年（昭和46年）6月6日、東京大手町にあった都立産業会館で歴史的な結成総会を開催しました。総会には、全国から250人を超える透析患者、透析を目前にした腎不全患者、慢性腎炎の患者や家族が土砂降りの雨の中を集まりました。各地の代表から患者の実態、「金の切れ目が命の切れ目」と言われた実情が報告され、全国組織結成への熱い期待が表明されました。総会では、①人工透析の費用を全額国庫負担に②透析患者を身体障害者に③全国各地に腎センターを④長期療養者の治療費の保障を、と四点の「当面する緊急目標」を含む活動方針などを満場一致で採択しました。

全腎協は、既成の患者団体の経験に学び援助も受けながら、結成後ただちに精力的な運動を始めました。結成翌々日には厚生大臣に面会し、患者の実情を訴え腎疾患総合対策の早期確立を要望し、1971年（昭和46年）10月第1次国会請願を実施しました。11月以降は厚生省、大蔵省、国会各党に対して、腎疾患対策関連予算要求を全額予算化するよう求めて連日の行動を進めました。

全腎協結成から1年足らずで国の公費医療費助成制度（更生医療、育成医療）、人工腎臓の増設などが実現したのは、患者の命をかけた闘いで歴史的に大きな成果でした。

東腎協結成までの動き

全腎協が先に結成されたのは、「金の切れ目が命の切れ目」という劣悪な実態を解消する活動が何よりも急務だったからです。全腎協の在京役員は、東腎協が結成されるまでの約1年半の間、「全腎協東京地区患者団体」の名称で都交渉を行い、同時に東腎協結成にも取り組みました。最初の1年間は、在京役員数も少なく、当時の透析治療技術では強い貧血等で体調も悪く、活動に困難を極めました。東京都の昭和47年度予算編成に向けての要請行動では、当時の全患連、全難連に加盟している患者団体の支援を受け活動に取り組みました。

全腎協が結成した約2ヵ月後、全患連の要請で**1971年（昭和46年）8月12日に、美濃部都知事との対話集会が実現しました。この集会で全腎協は、「東京にも約千人の透析患者がいます。今度、都立大久保病院に人工腎臓が増えることになったので喜んでいるがまだ足りません。人工腎臓さえあれば、生きて働けるのだから、もっと増やしてもらいたい」と要請しました。これに対し「今後も増やす努力をします」との答弁を得ました。**

東京都が国に先駆けて、初めて腎不全関係の予算を計上したのは1971年（昭和46年）度からでした。この約1億2千万円の腎不全対策費は、当時人工腎臓を2台しか保有していなかった都立大久保病院に、本格的な透析センターが設置されることになりました。人工腎臓13台、収容人員30人

といわれたこのセンター実現の知らせは、当時東腎協結成を目指していた私たちを大いに勇気づけました。

美濃部革新都政の「先取り福祉」は、腎不全対策においては、多くの死ぬべき人の命を救ったのみならず、国や他の自治体にも強い影響を与えました。

47年度予算においては、2億5千万円の腎不全対策費が計上されました。この都の措置により1972年（昭和47年）7月1日から、透析治療費自己負担の半額が公費助成されました。この年の10月からは国の更生医療、育成医療の適用が予定されていたとはいえ、1ヵ月の自己負担であっても多額であった当時においては、まさに命の綱でした。

全腎協が「都道府県単位の地方組織結成をすすめる」との方針を打ち出したのは、第2回総会1972年（昭和47年）6月25日でした。また、その1ヵ月前5月28日、富士紡績会館で東腎協結成第1回準備会を開催しました。

東腎協結成総会の主な内容

東腎協結成総会は、1972年（昭和47年）11月19日、大手町の都立産業会館にて開催しました。総会参加者は120人と記録されています。

活動方針として5項目を決定しました。

①腎疾患の早期発見・早期治療の確立、全都民の公費による検尿制度の確立

②腎炎、ネフローゼ等の長期療養者の医療費公費負担と生活保障

③総合腎センターの設置

④専門医療関係者の充実

⑤社会復帰対策の促進

さらに次のような総会宣言が採択されました。

「私たち腎臓病患者は、〝一人の人間として、一人の社会人として〟生きることを切望しております。そして、じっくりと、治療、療養し、体調を整え、あるものは、職場へ復帰し、家族の大黒柱となり、主婦は家庭へ戻り、しっかりと家庭を守り、また学生は学園に戻り、勉学にいそしみたい、皆、精一杯自分自身の責務を果たしたいと念願しております。しかし、肝腎の医療制度や、私たちを受け入れる社会は、私たちにとって、まだまだ厳しいものがあり、一人ひとりでは、いかに努力しても解決できない問題があまりにも多すぎます。

一方、私たちの生活環境はますます悪化し、腎臓病患者は、まだまだ増える傾向にあります。私たちはこれ以上の私たちの肉親、友人、知人そして一般の人々に、この苦労を味合わせたくありません。」

初代会長に、寺田修治（大久保病院腎友会・会長）を選出しました。

模索のなかの前進（1973年～1981年）

東腎協結成の翌年1973年（昭和48年）9月には、いち早く都議会への請願署名「腎臓病・人工透析患者の医療の改善に関する請願」を行う活動を展開しました。しかし、寺田は、1974年（昭和49年）3月31日、第2回総会開催寸前に大久保病院の近くの喫茶店で患者会の打ち合わせを行っている

最中、突然倒れそのまま帰らぬ人となってしまいました。総会のために用意していた会長あいさつ文が遺稿となりました。

第2回東腎協総会で、人工腎臓虎の門会の石坂一男を第2代会長に選出しました。まず、具体的な資料を基に請願要請活動を行うための会員実態調査を行った後、第2回目の都議会請願に取り組みました。

1974年（昭和49年）11月1日、東腎協はそれまで個人宅に事務局を置いていましたが全腎協事務所に同居する形で活動の拠点としました。

同年①心身障害者（1・2級）の医療費公費助成制度②心身障害者福祉手当③3歳児検尿④障害年金の障害認定日の短縮⑤悪性高血圧（腎硬化症）の医療費公費助成制度⑥身体障害者の雇用促進法の適用が実現するなど飛躍的な運動の前進をかち取りました。

6月14日には、初の東京都衛生局の事業説明会を開催して頂きました。これがその後の東京都予算要請行動として今日まで続いている活動の一つです。

1976年（昭和51年）4月18日、東腎協第4回総会で宝生和男が第3代会長に就任しました。宝生は、私たち患者は弱い立場で、一本の細い糸であってもそれが集まればヒモになるだろう、ヒモをよじればロープになるだろうとの思いと決意を死ぬまで貫き通しました。

1977年（昭和52年）心身障害者（児）医療費助成制度が内部障害者3級まで拡大されました。

1978年（昭和53年）宝生は会員拡大に力を注ぎ、患者会数11団体、会員数は大幅に増加しました。

1980年（昭和55年）10月、第1回の個人会員交流会を開催しました。個人会員の悩みや声を聞きながら患者会結成を交流会の目的としました。

1981年（昭和56年）11月8日、全腎協は第1回腎バンク登録者拡大全国一斉街頭キャンペーンを実施しました。東腎協は上野、新宿、渋谷にて92人が参加し以後毎年継続実施しています。

組織の発展（1982年～1991年）

1983年（昭和58年）4月、事務局体制強化を目的とし事務局長に森義昭が就任し半専従体制をとりました。1985年（昭和60年）4月に新宿区下落合にあった全腎協事務局の一部を間借りしていた事務局を独立し体制の強化を図りました。

同年5月宝生会長の急逝に伴い、翌1986年（昭和61年）4月の総会まで泉山知威副会長が会長代行として活動を引き継ぎました。

1986年（昭和61年）4月2日、第14回総会で石川勇吉が第4代会長に就任しました。代行だった泉山は全腎協の会長に就任しました。

同年10月、東京都腎不全研究会が設置され、腎不全対策の推進と方策の研究を行っています。その後、その研究報告を受け1988年（昭和63年）10月に東京都腎不全対策協議会を設置し、腎不全の予防から腎移植の推進等に対する総合対策について検討を進めることになりました。

1987年（昭和62年）11月22日、**第1回「腎臓病を考える都民の集い」が東腎協結成15周年記念事業の1つとして開催しました。**この集いは、「透析に苦しむ患者は私たちでたくさんだ」との想いから、広く都民に対して、腎臓病の普及啓発のために開催したもので、全腎協が提唱する腎疾患総合対策の実践として取り組みました。今日もなお重要な取り組みのひとつです。

同年10月18日、腎移植推進キャンペーン

を開催し、東京都が初めてこの事業に対し予算化しました。このキャンペーンは、東京都、東京都医師会、東腎協の三者により開催しました。

１９８９年（平成元年）４月２日、第17回東腎協総会で泉山知威が第５代会長に就任しました。

１９９１年（平成３年）10月26日、全腎協が豊島区目白駅近くの紫山会ビルに事務局を移転しました。それに伴い東腎協も同ビル３階に事務局を移転しました。

医療・福祉の危機（１９９２年～２００１年）

１９９２年（平成４年）４月５日、東腎協結成20周年第20回総会と同日20周年記念シンポジウムを開催し、同年11月29日に結成20周年記念祝賀会をアルカディア市ヶ谷で開催しました。

１９９４年（平成６年）４月３日、東腎協第22回総会を開催し、竹田文夫を第６代会長に選出し活動を引き継ぎました。

１９９４年（平成６年）10月、新宿区の透析施設で透析患者５人がＢ型肝炎ウイルスによる劇症肝炎を発症し、このうち４人が死亡する事故が発生しました。当該施設の患者はもちろん、他の透析患者にも大きなショックを与えました。東京都は、「東京都劇症肝炎調査班」を設置し、感染原因の究明に取り組みましたが、結局感染原因は判明したものの感染経路の特定には至りませんでした。

１９９５年（平成７年）１月17日未明、阪神淡路大震災が発生し未曾有の被害をもたらしました。透析患者についても24人が亡くなるなど患者・家族に関わる直接的な被害のほか、多くの施設でライフラインが断たれるなど、透析施設でも大きな被害を受けました。東腎協は、１９７９年（昭和54年）に東京都に対して、「災害時の人工透析医療の確保について」を提出して以来、毎年要望活動を継続してきました。阪神淡路大震災は東京都衛生局が「災害時救急透析医療システム検討部会」を設置した矢先の出来事でした。東腎協は、東京都地域防災計画１９９６年（平成８年修正）の中で初めて「透析患者への対応」という項目を設けさせる成果が得られました。

１９９７年（平成９年）４月６日、東腎協第25回総会を開催し、第７代会長に糸賀久夫を選出しました。同年６月15日東腎協結成25周年記念講演会を開催し、同年６月22日結成25周年会員交流パーティーを開催しました。

同年度、東京都は、「財政健全化計画」で、心身障害者医療費助成制度について、住民税非課税者以外の障害者について老人保健法並みの自己負担を求めてきました。東腎協は、11月に都議会請願に取り組み「心身障害者（児）医療費助成ならびに障害者関係施策の継続・発展を求める」請願署名を提出しました。

１９９８年（平成10年）４月26日、東腎協第26回総会を開催し、会員数が増加し事務所が狭くなったため７月９日東腎協事務所を豊島区大塚駅近くの一橋ゼミナール新本社ビルに移転しました。新事務所は、旧事務所の３倍の広さで、日常の業務と発送作業、来客の対応が平行して行えるようになりました。

１９９９年（平成11年）７月29日、東京都は「財政再建推進プラン」を発表、続いて「福祉施策の新たな展開」を発表した。その内容は、マル障は①所得制限の強化②自己負担の導入③新規65歳以上を対象外とする。心身障害者福祉手当は①所得制限の強化②新規65歳以上を対象外とするなどの厳しい内容のもとで、住民税非課税を除き

老人保健並みの自己負担となり、所得制限を超えた人や65歳以上の新規透析患者はマル障の対象外となりました。

同年8月22日、第1回地域腎友会交流会を開催しました。福祉、介護、防災など地域での取り組みの重要性が増し、地域での組織化や交流会などで情報交換の場を提供することを目的に毎年継続し開催しています。

2000年（平成12年）度から「腎臓病を考える都民の集い」は、都民への啓蒙活動の重要性を考え、東腎協がすべての経費を負担し開催しています。

2002年（平成14年）4月21日、東腎協結成30周年記念総会を開催し、糸賀に代わり渡邉忠志が第8代会長に就任しました。同年11月10日には、京王プラザホテルで結成30周年祝賀パーティーを開催しました。

進む患者の高齢化（2002年～2011年）

全腎協は、1990年頃から患者の高齢化や長期透析による合併症の重複化・重度化に対し要介護透析患者の実態把握と厚生省・国会への要望活動、通院送迎の実践という方法で取り組みを進めてきましたが、透析患者を取り巻く環境も時間の経過とともに変化しました。

2000年（平成12年）4月に介護保険制度がスタートしました。将来利用者の増加が見込まれ、財源問題など課題が多い中、2006年（平成18年）には予防給付がスタートしました。また、ホテルコスト（居住費、食費等）や透析患者の認定基準などが課題となりました。

2003年（平成15年）1月29日、東腎協事務局を近隣の信友大塚ビルに移転しました。同年4月20日東腎協第31回総会を開催し、渡邉に代わり榊原靖夫が第9代会長に就任しました。

2005年（平成17年）2月10日、第162回通常国会に提出された障害者自立支援法（案）が閣議決定され、同年10月31日に法案が成立しました。これにより更生医療が自立支援医療に名称を変更し「応能負担」から「応益負担」（原則1割負担、人工透析は別途所得で負担設定）に代わり、国制度の公費助成制度が後退しました。

患者の高齢化が進む中で、全腎協が中心となり介護支援や通院対策に取り組んできましたが、患者会活動にも徐々に影響を与えるようになってきました。病院患者会の役員の高齢化や後継者不足による病院患者会の解散が見られるようになり、2003年度総会議案書の活動報告の中では、当時の東腎協執行部である常任幹事会が体調不良等の理由で出席率が60％程度まで落ち込んでいることが記載され、患者会活動の後退が危惧されました。

そのような状況の中、2003年（平成15年）4月20日第31回総会で東腎協がNPO法人の取得を目指すことを承認し、翌年第32回総会において法人化を最重要課題と位置付けました。その後取得に向け活動に取り組み、**2006年（平成18年）2月7日にNPO法人東京腎臓病協議会として新たなスタートをしました。**

2008年（平成20年）4月、老人保健制度に代わり後期高齢者医療制度がスタートしました。

同年9月7日に東腎協事務局を信友大塚ビルから近隣の富士大塚ビルに移転しました。

2009年（平成21年）6月21日、NPO東腎協第4回総会を開催し、榊原に代わり木下久吉が第10代会長に就任しました。

2011年（平成23年）3月11日、東日本を国内観測史上最大のマグニチュード9

・0の巨大地震、東日本大震災が発生しました。地震とともに巨大津波が発生し多くの人命を奪いました。さらに福島第一原子力発電所が被災し被害を拡大しました。東京都には福島県から約４００人の透析患者が避難してきました。避難者への透析確保や計画停電等のため都内透析施設では、透析時間の短縮や時間の変更などを行い対応しました。

３月15日には、東腎協事務局に宮城県の医療機関（関東の医療機関を経由）より「サブラット、サブパックなどの物品が不足し、トリアージ（傷病者の振り分け）をかける段階にまできている。協力してほしい。」と協力依頼のファクシミリが届きました。

この時の経験は、後の東京都直下型大地震をはじめ透析患者の災害対策への取り組みに大きな影響を与えました。同年11月29日東京都区部災害時透析医療ネットワークは『報告と提言「いわき市の透析患者集団避難に学ぶ」首都圏大災害への備え』出版記念講演会を開催し、２０１４年（平成26年）３月には、東京都福祉保健局から「**災害時における透析医療活動マニュアル**」**（改訂版）が発行されました。（平成９年初版、平成13年改訂、平成８年改訂）。２０２１年（令和３年）５月改訂版。**

現在は、東京都透析医会災害対策委員会に東腎協会長の戸倉が参加し、東京都透析医会と連携し災害対策に取り組んでいます。

新たな課題への取り組み（２０１２年以降）

東腎協は、２０１２年度結成40周年を迎え以下の記念事業を行いました。

⑴全会員を対象に実態調査の実施。
調査票を４６４５票配布、３０９０票回収（回収率67％）報告書を３月27日に発行しました。

⑵40周年記念誌「あゆみ」の作成。
３月18日に発行し全会員へ配布しました。

⑶40周年記念祝賀会の開催。
12月２日にアルカディア市谷で開催しました。

２０１３年（平成25年）６月23日、ＮＰＯ東腎協第８回総会を開催し、木下に代わり藤田吉彦が第11代会長に就任しました。

２０１３年（平成25年）10月16日、伊豆大島で大規模土石流が発生し死者35人行方不明４人の大惨事が発生しました。透析患者では、１人死亡し、多くの患者が都内に避難し透析を受けました。翌年２月22日に東腎協災害対策委員長の戸倉振一副会長と岸里悟事務局長、全腎協の小野誠副会長が現地を視察しました。

２０１５年（平成27年）６月14日、ＮＰＯ東腎協第10回総会において会員減少対策や財務体質の強化、医療福祉の向上などを目的とし「東腎協中期事業計画案」（期間、２０１５年から２０１７年）を提案し組織強化に取り組みました。

２０１６年（平成28年）６月12日、ＮＰＯ東腎協第11回総会を開催し、藤田に代わり梅原秀孝が第12代会長に就任しました。

２０１９年（令和元年）３月７日、公立福生病院（東京都福生市）において２０１８年（平成30年）８月16日人工透析を継続か中止か医師より選択肢を示された患者が、透析を中止することを選択し死亡したことが報道されました。

情報収集等を行いましたが不明な点も多く、全腎協より公立福生病院に対し経過等の説明を求めました。４月８日全腎協事務局で全腎協から高野顧問弁護士と金子常務理事、東腎協からは板橋事務局長が出席し、公立福生病院顧問弁護士（２名）から説明を受けました。

２０１９年（令和元年）６月９日、ＮＰＯ東腎協第14回総会を開催し、梅原に代わり戸倉振一が第12代会長に就任し現在に至っています。

２０２０年（令和２年）４月17日、（一社）日本透析医学会より「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」が発表されました。透析患者が高齢化する中で、患者会では「エンディングノート」や「事前指示書」を中心に透析患者の終末期医療について勉強会などを開催してきましたが、この提言は法的な拘束はないものの「透析の見合わせに関する確認」、「透析の見合わせに関する撤回書」等について記載されており、公立福生病院の患者の死亡も併せ、人工透析を受ける当事者の「新たな判断」について勉強会や意見交換など継続した議論が必要です。

２０２０年（令和２年）年頭より新型コロナウイルス感染症が感染拡大に入り基礎疾患のある透析患者には脅威となりました。また感染した透析患者の受け入れ施設や透析治療の確保に取り組み、小池百合子東京都知事に「人工透析患者の新型コロナワクチン接種についての要望」を提出しました。

一方、感染症予防のため行動制限で、従来型の患者会活動が大きく制限され、Ｗｅｂを利用した三役会、理事会などの実施など、今までに経験したことのない対応に迫られました。

最後に

東腎協結成から50年間の活動を振り返りました。昔を知る多くの仲間・語り部が亡くなり、保存してある資料だけでは不明な個所も多々あり、今後この活動をどのように未来につなげていくかが課題です。また、診療報酬や医療保険制度などの変遷の他、多くの事柄が紙面の都合で記載されていません。

半世紀が経過し取り巻く療養環境や人工透析を受ける患者構成が大きく変化しました。患者会活動は、患者の高齢化や長期透析による合併症などで活動が停滞し、組織体制の弱体化にも影響しています。行政、医療機関、介護事業所、患者・家族などが連携した多職種連携についての議論が必要になってきました。

透析治療についても、先人の命をかけた活動により「いつでも、どこでも、誰もが必要な時に治療が受けられる」環境が出来ましたが、新たに終末期医療や透析の中止などについても議論が必要になってきました。いずれも大きな課題ですが、先人が過去乗り越えてきたように役員・会員が団結し課題に取り組んでいけば乗り越えられると確信しています。そして患者一人ひとりが笑顔で暮らせる未来が訪れることを願います。

最後に、元東腎協会長の糸賀久夫さんと元監事の篠原栄一さんが全腎協結成50周年記念祝賀会で長期透析者（50年）として表彰されました。お二人はそれぞれ社会保険労務士、税理士の専門の立場から東腎協の活動に長年ご尽力いただきました。これからも療養に専念いただき、透析患者の目標・希望となっていただけることを願い東腎協の活動50年間のまとめとします。

２０２２年（令和４年）10月18日、糸賀久夫さんがご逝去されました。
糸賀さんは透析生活50年を迎え、その年月を東腎協とともに歩んでこられました。長年の東腎協へのご功績に感謝申し上げ、東腎協役員・会員一同心からご冥福をお祈り申しあげます。

この10年の主な活動報告

この10年の主な活動報告　2013年～2022年まで

（1）はじめに

2020年1月、新型コロナウイルス感染症が日本をはじめ世界中で蔓延拡大し、3年を経過し、2類から5類への移行などが予定されているが、我々透析患者、基礎疾患の患者にとってはまだまだ予断を許さない状況です。

この間、NPO法人東京腎臓病協議会（東腎協・以下略）活動、患者会活動、ブロック活動のほとんどを自粛せざるを得なくなり、患者会役員の高齢化もあって、2021年末には会員数は2000名を切るという厳しい組織状況の中で、東腎協創立50周年を迎えることになりました。

（2）透析患者をめぐる情勢（表1）

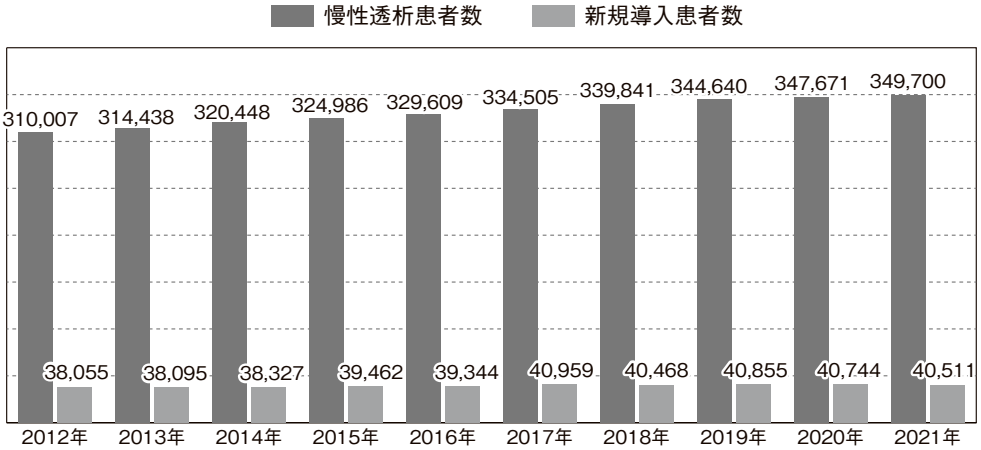
2021年末の慢性透析患者数は34万9700人（日本透析医学会資料・以下同）で、2012年から3万9693人増加しています。新規導入患者は4万511人と毎年ほぼ微増となっています。また、透析患者の平均年齢は69・67歳（2012年比2・85歳増）、新規導入患者は70・9歳（同2・45歳増）と高齢化が進んでいます。

東京の透析患者数は2021年末では3万3584人で全国透析患者のほぼ1割となっています。

（3）東腎協の患者会（表2）

東腎協の会員数は2003年の約7000名強をピークに年々減少し2021年度末会員数は1825名となり、会員減少の動向は今後とも続くと思われます。**その主な要因は、透析患者全体の高齢化により患者会役員の担い手がいなくなったこと、新規導入患者も高齢化して患者会への期待や要求が減少したことなどです。**さらに2020年来の新型コロナウイルス感染症禍で患者会活動が制限され、一層会員減少に拍

（表1）過去10年の慢性透析患者の推移（日本透析医学会資料）



患者平均年齢	66.82	67.21	67.54	67.86	68.25	68.43	68.75	69.09	69.4	69.7
新規導入患者平均年齢	68.45	68.67	69.04	69.2	69.4	69.68	69.99	70.42	70.88	70.9

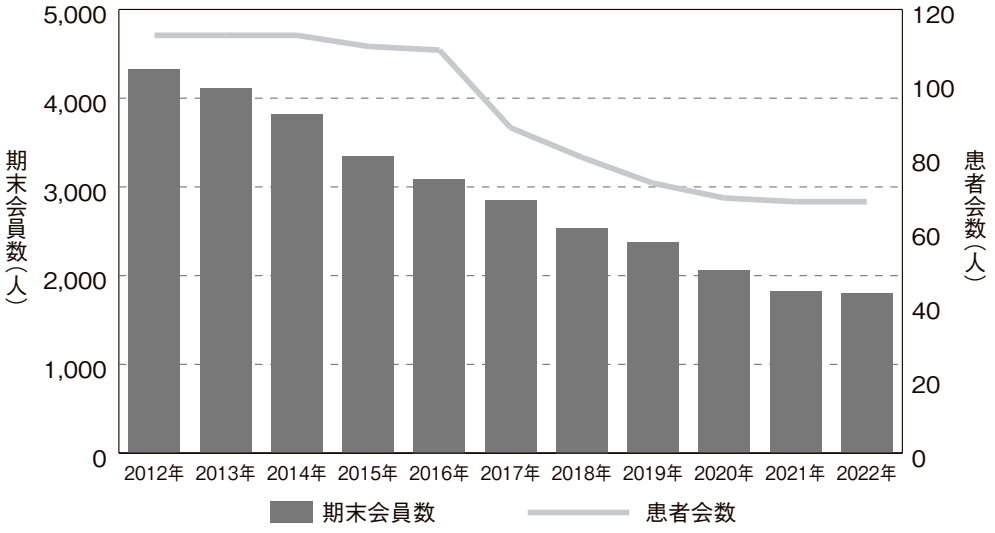
車をかけました。

全腎協・東腎協の50年の闘いで、透析医療環境は目を見張る進歩を遂げ、全腎協結成時の「いつでも、だれでも、どこでも」の理念が、今日では当たり前のこととなり患者会の存在が薄れてきていることも大きな要因です。しかし、今日の透析医療費や医療環境がある程度守られてきているのは、厚労省や東京都に全腎協や東腎協が毎年要望書を出していること、CKD啓蒙活動、臓器移植推進普及活動、災害時における透析患者の災害対策など社会貢献活動を継続して来ていることの成果です。今後とも患者会の存在が重要であることを強く訴えていくことが大切です。

2022年3月に、東京都透析医会会長安藤亮一先生、東京都透析医会災害対策委員長花房規男先生、東京都区部災害時透析医療ネットワーク代表世話人酒井謙先生、菊地勘先生、三多摩腎疾患治療医会理事長要伸也先生連名の推薦文を同封した、東腎協会長名での「NPO法人東腎協機関誌・入会パンフレット常備のお願い」の文書を約200の会員施設（東腎協患者会のある68施設を除く）へ郵送しました。東京都の透析施設（約400施設）の多くに、東腎協機関誌、入会パンフ等が常備されることによって、多くの患者さんに東腎協、全腎協を知ってもらい将来的な会員増加に繋がることを期待したいと思います。

透析患者の高齢化は今後もさらに進みます。患者会への入会呼びかけや患者会の運営などに、透析施設のスタッフの方々の協力が得られるよう要請することが重要です。

(表2) 過去10年の会員推移



（4）東京の透析医療費の推移

東腎協は毎年東京都に「各種医療費助成制度（マル障・マル都）」の堅持継続を要請しています。東京都は透析患者への「難病医療費等助成制度（マル都）」として月額1万円を限度に助成していますが、「心身障害者（児）医療費助成制度（マル障）」「心身障害者福祉手当制度」の新規導入患者の適用は65歳未満が対象となっています。

2020年9月の福祉施策の改正で、65歳以上での透析導入者は「後期高齢者制度」に加入でき医療負担が軽減されるという理由で対象外とされました。さらに2023年度から一定所得以上は1割負担から2割負担になることが決定しており、負担割合が増えることで自治体の財政負担増が予想され、公費負担医療制度の後退が懸念されます。

同じ病室で、隣の患者さんと65歳を理由にして医療費（マル障・非課税者医療費無料）、福祉手当（毎月1万5500円・同）の違いがあるという事態となっています。新規透析導入患者の平均年齢が70歳を超え

ている現実から、65歳以上でも対象にしてほしいと要望していますが、現時点での見直しは難しいと思われます。

（5）全腎協、関東ブロック会議

一般社団法人全国腎臓病協議会（全腎協・以下略）は1971年6月、安心して人工透析が受けられるよう4点の当面する緊急目標（①透析医療費の全額国庫負担、②透析患者を身体障害者に、③長期療養者の治療の保障、④全国各地に腎センターの設置）を掲げ結成されました。

全国を9ブロックに分け、東腎協は関東ブロック（東京、神奈川、埼玉、千葉、山梨、栃木、茨城、群馬、長野）に所属しています。2022年度全腎協理事（定数20名）のうち4名が関東ブロック（東京2名）から選出され、全国最大の会員数を抱えるブロックとなっています。

関東ブロック会議は一泊での会議が年1回、日帰りの会議が年1回ですが、コロナ禍の現在、2020年よりZoomを使ったリモート会議を年間5回開催しコロナ対策や各都県の活動報告、経験交流、学習会などを行っています。

（6）他団体との連携（東難連、腎臓サポート協会など）

NPO法人東京難病団体連合会（東難連・以下略）は、1972年東腎協をはじめ12団体により設立され2022年に設立50周年を迎えました。東腎協は設立時から会長、副会長、理事長を務め、2018年から2022年1月までは東腎協副会長の榊原靖夫さんが理事長を務めました。

1998年には「難病患者実態調査報告書」や「難病対策の見直しに関する要望書」などを国や東京都に提出しました。

2022年定時総会では、東京都ピア相談室事業だけでなく、難病相談会や講演会等の東難連事業を推進し、東京での難病団体活動だけでなく全国に新しい情報発信をしていく方針を掲げています。

NPO法人腎臓サポート協会は2001年に設立され、松村満美子理事長のもと腎臓病患者のQOL向上に努められてきました。東腎協主催・東京都共催の「腎臓病を考える都民の集い」では2013年まで企画・司会などのご協力をいただきました。

（7）東京都福祉保健局疾病対策課、東京都透析医会、三多摩腎疾患対策治療医会、東京都臨床工学技師会などとの連携

2018年1月、東京都透析医会は日本透析医会の40番目の都道府県単位の支部として発足されました。その主な目的は ①透析療法の向上発展 ②透析患者の災害対策です。とりわけ、東京都透析医会災害対策委員会では、緊急時透析情報共有マッピングシステム（TokyoDIEMAS）を運用・拡充しています。

東腎協は東京都透析医会災害対策委員会に戸倉会長が委員として参加し、2019年3月には「東京都23区区民公開講座～震災に備えて～」が、①東京都区部災害時透析ネットワークと三多摩腎疾患対策治療医会、東京都臨床工学技士会の連携について、②熊本地震の報告～その時透析施設は？というテーマでシンポジウムが開催されました。

また、2019年10月に開催された東腎協第9回大会では、シンポジウム「災害時における透析治療をどう確保するか」で東京都福祉保健局疾病対策課、東京都透析医

会、三多摩腎疾患対策治療医会、東京都臨床工学技士会の先生方のご協力を頂きました。

新型コロナウイルス感染症関連対策では日本透析医会・日本透析医学会・日本腎臓学会新型コロナウイルス感染症対策合同委員長の菊池勘先生を中心に「Ｗｅｂ市民公開講座」が開催され、機関誌「とうじんきょう」で感染対策について情報提供を頂きました。

２０２１年５月に改訂された東京都福祉保健局「災害時における透析医療活動マニュアル」では、全区市町村をブロックに分け透析施設災害担当者が明記されました。そして２０２２年３月には透析患者を対象とした「改訂マニュアル講演会」（Ｗｅｂ）が東京都透析医会災害対策委員会主催、東京都、東腎協後援で開催されました。

（8）東腎協10年間の主な活動

【社会貢献事業】

○臓器移植普及推進キャンペーン

１９９７年に「臓器移植法」が施行されてから今年で25年になります。しかし、臓器移植の現状は、２０１９年臓器提供が１２５例、臓器移植総数は４８０例で２０１２年（臓器提供１１０例、臓器移植総数３０３例）に比べ微増ですが、諸外国に比べ遥かに少ない状況です（1位スペイン49例／１００万人、日本0・99例／１００万人）。さらに２０２０年以降は新型コロナウイルス感染症の影響で臓器提供77例、臓器移植数２１８例となっています。

「臓器移植普及推進キャンペーン」は、世界腎臓デー（10月）に上野恩賜公園（２０１２～19年）、井の頭恩賜公園（２０１５～17年）で東腎協主催・東京都共催で開催され、ティッシュと臓器提供意思表示カードや全腎協の名入り風船などを配布しました。その他、八王子市、葛飾区、江戸川区、板橋区、江東区で地域腎友会を中心にキャンペーンを行いました。さらに、２０１６年からは東京医大八王子医療センターの医師、看護師さんの協力を頂き、健康相談・血圧測定・尿検査シートの配布などを行いました。２０２０年からは新型コロナウイルス感染症の拡大で中止となっていましたが、２０２２年10月には3年ぶりに井の頭恩賜公園で東京都共催、東京医科大八王子医療センターの協力で開催しました。

「臓器移植推進グリーンリボンパレード」は２０１８年からＮＰＯ法人グリーンリボン推進協会（全腎協、東腎協、心臓病の子供を守る会、日本移植者協議会、胆道閉鎖症の子供を守る会、ニューハートクラブ）の主催、厚労省、東京都、日本臓器移植ネットワーク、日本移植学会の後援で再開されました。青山学院大学学友会吹奏楽バトントワリング部の協力で日比谷公園→中央区銀座→八重洲鍛治橋跡までパレードを行いました。コロナ禍で2年間中止となっていましたが２０２２年10月に3年ぶりにパレードが行われました。

○国会請願署名活動（別表３）

全腎協主催の「国会請願署名」は毎年取り組まれ、２０２２年には第52次を迎えました。

腎臓病の早期発見、早期治療、「いつでも、どこでも、だれでも」が安心して透析を受けられる社会の維持、高齢化対策、災害対策、臓器移植の普及推進などを目指して取り組まれています。しかし、患者の高齢化等で署名活動ができずに年々署名数は減少しています。

国会請願の課題がなくなったわけではありません。私たちの声を届ける「国会請願署名」活動は今後も継続して取り組むべき

（表３）全国腎臓病協議会国会請願署名一覧

請願日	全国署名数（筆）	東腎協（筆）	結　　果
第42次　2013/3/21	908,722	19,727	衆議院：採択 参議院：審査未了
第43次　2014/3/20	737,229	16,822	衆参両院：採択
第44次　2015/3/19	704,514	14,815	衆参両院：採択
第45次　2016/3/17	633,332	14,775	衆参両院：採択
第46次　2017/3/16	572,456	17,074	衆参両院：採択
第47次　2018/3/15	539,124	13,873	衆参両院：採択
第48次　2019/3/14	525,400	10,971	衆参両院：採択
第49次　2020/3/19	535,952	10,753	衆参両院：採択
第50次　2021/3/18	419,137	7,250	衆議院：採択 参議院：審査未了
第51次　2022/3/16	350,732	5,753	衆参両院：採択

重要な活動です。

○腎臓病を考える都民の集い（別表４）

ＣＫＤ（慢性腎臓病）の早期発見、予防啓発は東腎協の活動の柱です。「腎臓病を考える都民の集い」は１９８７年に東京都、東京都医師会との共催で開催され２０１９年まで毎年開催されてきました。２０２０年は新型コロナウイルス感染症拡大により中止となりましたが、２０２１、22年には無観客で開催、録画をユーチューブと東腎協ホームページで配信しました。

【透析患者の権利を守る活動】

○東京都予算要請・都議会ヒアリング

東腎協は毎年東京都に「翌年度予算要請」を行っています。単一疾病患者団体で正式に要請・回答しているのは東腎協だけです。

要請項目は９の大項目と16の小項目があります（２０２２年度）。

1．各種医療費助成制度等の堅持継続について

要請事項①　医療費助成制度の堅持継続をして下さい。

要請項目②　新規65歳以上の障害者も対象にして下さい。

2．要介護透析者への支援強化について

要請項目③　要介護者の公費による移送助成をして下さい。

要請項目④　透析患者が入居可能な介護施設を増やす施策をさらに推進してください。

要請項目⑤　透析が可能な療養病床を増やして下さい。

要請項目⑥　腎臓病患者介護に関する研修の強化をして下さい。

3．ＣＫＤ（慢性腎臓病）への取組について

要請項目⑦　ＣＫＤの予防推進をして下さい。

要請項目⑧　「腎臓病を考える都民の集い」の支援強化をして下さい。

4．腎臓病患者の救急医療について

要請項目⑨　人工透析可能な救急医療体制をさらに強化して下さい。

5．透析医療の安全について

要望項目⑩　透析医療の安全について行政指導を強化して下さい

要請項目⑪　新型コロナウイルス感染症対策を推進して下さい。

6．患者中心の透析医療について

要請項目⑫　患者中心の透析医療を推進して下さい。

要請項目⑬　大災害時に透析医療を確保するため、区市町村、医療機関との連携を強化して下さい。

7．再生医療と臓器移植について

要望項目⑭　再生医療の研究を推進して下さい。

要望項目⑮　「臓器移植キャンペーン」の共催を継続して下さい。

8．就労支援について

（表4）腎臓病を考える都民の集い（2012年～2022年）

日時・会場	タイトル
第23回　2012/3/11 大森東急イン　101人	講演（Ⅰ）「慢性腎臓病（CKD）保存期から腎代替療法まで」 聖路加国際病院腎臓内科　ヒース・金城　雪
	講演（Ⅱ）「慢性腎臓病（CKD）保存期の食事療法・災害時の食事管理」 杏林大学医学部付属病院　栗山　絹世
第24回　2012/3/11 東京都庁第一 本庁舎5階 大会議場	講演（Ⅰ）「CKD（慢性腎臓病）ステージと食事療法について」 東京慈恵会医科大学附属病院　栄養課　湯浅　愛
	講演（Ⅱ）「知ってください！慢性腎臓病（CKD）～早期発見から再生医療まで」 東京慈恵会医科大学附属病院　腎臓高血圧内科　横尾　隆
第25回　2014/3/16 都民ホール　195人	講演（Ⅰ）「CKD（慢性腎臓病）について詳しくなろう一腎臓をまもるために」 東京医科大学病院　腎臓内科　菅野　義彦
	講演（Ⅱ）「CKD（慢性腎臓病）の食事療法～今すぐできる食事の工夫～」 女子栄養大学　坂本　香織
第26回　2015/3/15 都民ホール　96人	講演（Ⅰ）「腎臓病の予後改善を目指して」 昭和大学医学部　秋澤　忠男
	講演（Ⅱ）「慢性腎臓病予防のための食生活改善十訓」 川崎医科大学附属病院　市川　和子
第27回　2016/3/13 東京都庁 第一本庁舎5階 大会議場	講演（Ⅰ）「慢性腎臓病（CKD）の進行を防ごう」 河北総合病院透析センター長　篠田　俊雄
	講演（Ⅱ）「今日から実践、慢性腎臓病を予防し元気で長生きするための食事」 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター　湯浅　愛
第28回　2017/3/12 東京都庁 第一本庁舎5階 大会議場	講演（Ⅰ）「慢性腎臓病（CKD）の進行を防ごう」 武蔵野徳洲会病院　鈴木　洋通
	講演（Ⅱ）「元気で楽しく笑顔で過ごすための慢性腎臓病予防の食事」 武蔵野徳洲会病院　伊東　郁子
第29回　2018/3/11 東京都庁 第一本庁舎5階 大会議室	講演（Ⅰ）「CKD（慢性腎臓病）について詳しくなろう」 東京医科大学　菅野　義彦
	講演（Ⅱ）「CKD（慢性腎臓病）の食事療法」 女子栄養大学　坂本　香織
第30回　2019/2/10 都民ホール　110人	講演（Ⅰ）「慢性腎臓病（CKD）を良く知ろう～腎臓を守るために」 武蔵野赤十字病院　安藤　亮一
	講演（Ⅱ）「今日から実践！～腎臓を守る食事療法のコツ～」 武蔵野赤十字病院　原　純也
第31回　2020/3/15 （中止）	講演（Ⅰ）「慢性腎臓病（CKD）を良く知ろう～腎臓を守るために～」 東京慈恵会医科大学附属病院　腎臓・高血圧内科　福井　亮
	講演（Ⅱ）「今日から実践！～腎臓を守る食事療法のコツ～」 東京慈恵会医科大学附属病院　栄養部　赤石　定典
第32回（録画配信） 2021/1/24 東京都障害者福祉会館 11人（無観客）	講演（Ⅰ）「慢性腎臓病（CKD）を良く知ろう～腎臓を守るために～」 東京慈恵会医科大学附属病院　腎臓・高血圧内科　福井　亮
	講演（Ⅱ）「今日から実践！～腎臓を守る食事療法のコツ～」 東京慈恵会医科大学附属病院　栄養部　赤石　定典
第33回（録画配信） 2022/3/20 都民ホール　10人	講演（Ⅰ）「慢性腎臓病（CKD）を良く知ろう～腎臓を守るために～」 杏林大学腎臓・リュウマチ・膠原病内科　要　伸也
	講演（Ⅱ）「今日から実践！～腎臓を守る食事療法のコツ～」 杏林大学附属病院栄養部　中村　未生

要望項目⑯　内部障害者の雇用環境の整備を推進して下さい。

＊これらの「予算要請」回答をより確かなものとするため、毎年東京都議会の主な政党議員団の皆様とヒアリングを行っています。２０２２年度は東京都議会自由民主党、都民ファーストの会東京都議団、都議会公明党、日本共産党東京都議会議員団、都議会立憲民主党とヒアリングを行い、私たちの要望をご理解いただき推進・ご協力を要請しました。

○患者のＱＯＬ向上

透析医療技術の向上は目覚ましく、その技術水準は世界に誇れるものとなっています。しかし、その一方で、透析の長期化、高齢化により身体機能の低下、日常生活に介助を要する透析患者が増加しています。

そのような問題に対処するため近年、「腎臓リハビリテーション」という観念が提唱されています。運動療法、食事療法と水分管理、薬物療法、精神、心理的サポートなどを、長期にわたって包括的に行うもので、透析患者のＱＯＬ（生活の質）の向上、透析導入予防などに効果があると言われ、東腎協は積極的に普及・発展に取り組みます。

○広報活動・情報発信・共有

人工透析患者の高齢化とともに東腎協役員（理事・定数20人）の候補も減少しています。ブロック割は会員減少に伴い２０２２年度から23区ブロックと多摩ブロックに改編しました。コロナ禍ではありますが、ブロックごとの正会員、個人会員の交流会、学習会などが再開されることを期待します。

患者会活動の要である機関誌「とうじんきょう」は年４回発行を堅持してきました。会報の内容の充実、読みやすさ等も努力します。ホームページ等での情報発信を強化するとともに今後とも継続していきます。

○東腎協大会（別表５）

東腎協会員全体の交流・学習の場である東腎協大会は、第３回（２０１３年）から第10回（２０２２年）まで毎年開催されました。２０２０年からは新型コロナウイルス感染症拡大により２年間中止となりましたが、２０２２年10月30日に東腎協創立50周年記念大会（第10回）が開催されました。

（表５）東腎協大会（2013年～2022年）

日時・会場	タイトル
第３回 2013.6.13(日) 戸山サンライズ	Ⅰ「透析と心臓（循環器）」 日大附属駿河台病院循環器内科　鈴木　康之
	Ⅱ「透析患者の運動について」 江戸川病院メディカルクリニック 篠崎駅西口センター長　新城　孝道
第４回 2014.7.6(日) 大森東急イン	笑いと健康～プラス思考で医療を考えよう 関東医療クリニック院長　松本　光正
第５回 2015.7.19(日) アルカディア市谷	Ⅰ「透析患者のリハビリ運動療法」 嬉泉病院透析センター看護師長　浮谷　章子
	Ⅱ「透析患者に役立つ運動について」 嬉泉病院透析センターリハビリテーション科 臼井　直人
第６回 2016.9.11(日) タワーホール船堀	CKD 分子栄養療法と運動で認知症・介護予防 メディカルプラザ市川駅院長　佐中　孜
第７回 2017.9.10(日) 主婦会館プラザエフ	首都直下型地震に備えるために 「巨大災害を経験した被災地からの報告」 福島県腎臓病患者連絡協議会 熊本県腎臓病患者連絡協議会 NPO 兵庫県腎友会
第８回 018.6.3(日) 東京都障害者福祉会館	近未来の透析療法～人工腎臓器開発の現在・未来～ 東京医科大学病院主任教授　菅野　義彦
第９回 2019.9.15（日） 主婦会館プラザエフ	シンポジウム「災害時の透析医療をどう確保するか」 東京都透析医会災害対策委員会担当幹事 菊池　勘 三多摩腎疾患治療医会災害対策委員長 尾田　高志 東京都臨床工学技士会災害対策委員長 岡本　裕美 東京都福祉保健局疾病対策課長 鈴木　裕子
第10回 2022.10.30（日） 主婦会館プラザエフ	腎臓再生医療の現状と展望 東京慈恵会医科大学腎臓高血圧内科主任教授 横尾　隆

資料

東腎協歴代役員

（敬称略・順不同）

1980(S55)	1979(S54)	年　度	1978(S53)	1977(S52)	1976(S51)	1975(S50)	1972(S47)	年　度
宝生　和男	宝生　和男	会　長	宝生　和男	宝生　和男	石坂　一男	石坂　一男	寺田　修治	会　長
泉山　知威 一ノ清　明	泉山　知威 一ノ清　明	副会長	一ノ清　明 平沢　三吾	一ノ清　明 平沢　三吾	一ノ清　明 平沢　三吾	泉山　知威 小林　猛史	小林　猛史	副会長
石川　勇吉	平沢　三吾	事務局長	泉山　知威	泉山　知威	泉山　知威	堀江紀久雄	堀江紀久雄	事務局長
加藤　茂 山崎　雅和	加藤　茂 山崎　雅和	事務局次長	糸賀　久夫 加藤　茂 高橋勇二郎	糸賀　久夫 加藤　茂 坂口　幸治	加藤　茂 中島　良明 吉田　修吾	加藤　茂 山本　豊 吉田　修吾	山本　豊 吉田　修吾	事務局次長
山北　貴義	石川　勇吉	会　計	井田　弘之	井田　弘之	井田　弘之	伊藤　喜良	加藤　茂	会　計
井田　弘之 髙橋　輝義	草間　和男 徳永　雄二	会計監査	武富　正治 平谷　良治	田中　克人 堀江紀久雄	郷州　七蔵 三浦　礼子	大智　義文 伊藤　勲	田中　克人 石坂　一男	会計監査
秋山　順子 池井　弘 糸賀　久夫 川崎　隆利 川下　俊之 木村　尚夫 窪田　一恵 小泉　佐内 小林　孟史 髙橋勇二郎 中村美枝子 平沢　三吾 笛　智子 矢沢　輝之 渡辺多加代	池井　弘 糸賀　久夫 小林　孟史 川崎　隆利 高橋勇二郎 山北　貴義	常任幹事	池井　弘 川崎　隆利 田中　克人 堀内　達雄 山崎　雅和	小川　政夫 小泉　佐内 髙橋勇二郎 谷　頼孝 月田　修次 堀内　達雄 山崎　雅和 吉田　修吾	糸賀　久夫 入口　成子 上野　信幸 岡本　暁 髙橋勇二郎 月田　修次 永井　知直 永野　孟夫 原　一 堀江紀久雄 宝生　和男 山崎　雅和 堀内　達雄 田中　克人 中村美枝子	阿部　光美 生間　正幸 井田　弘之 一ノ清　明 糸賀　久夫 上野　信幸 牛岡　貢 小川　浩司 佐藤　征二 佐藤　清次 原　建治良 平沢　三吾 堀内　達雄 山田　誠 石原　重幸	大智　義之 筑土　隆男 伊藤　喜良 牧　清美 岡本　暁 平沢　三吾	幹　事
	小川　忠光	相談役	小川　忠光 小林　孟史	小川　忠光 小林　孟史	小川　忠光 小林　孟史	小川　忠光	小川　忠光	顧　問

1988(S63)	1987(S62)	1986(S61)	1985(S60)	1984(S59)	1983(S58)	1982(S57)	1981(S56)	年　度
石川　勇吉	石川　勇吉	石川　勇吉	宝生　和男	宝生　和男	宝生　和男	宝生　和男	宝生　和男	会　長
一ノ清　明 糸賀　久夫 高橋勇二郎 平沢　三吾 柳　光夫	一ノ清　明 糸賀　久夫 高橋勇二郎 平沢　三吾 柳　光夫	一ノ清　明 高橋勇二郎 平沢　三吾 柳　光夫	泉山　知威 一ノ清　明 高橋勇二郎 平沢　三吾 柳　光夫	泉山　知威 一ノ清　明 高橋勇二郎 平沢　三吾	泉山　知威 一ノ清　明 高橋勇二郎 平沢　三吾	一ノ清　明 泉山　知威 平沢　三吾	泉山　知威 一ノ清　明 高橋勇二郎 平沢　三吾	副会長
森　義昭	森　義昭	森　義昭	森　義昭	森　義昭	森　義昭	石川　勇吉	石川　勇吉	事務局長
加藤　茂 草間　和男 竹田　文夫	加藤　茂 草間　和男 竹田　文夫	加藤　茂 草間　和男 竹田　文夫	加藤　茂	加藤　茂	加藤　茂	加藤　茂 山下　俊之	加藤　茂 山下　俊之	事務局次長
中田　青攻	中田　青攻	竹田　文夫	草間　和男	草間　和男	石川　勇吉	山北　貴義	山北　貴義	会　計
飯塚　行雄 大沢　勇三	飯塚　行雄 大沢　勇三	山田　誠 櫻井　久男	櫻井　久男 山田　誠	武富　正治 山田　誠	武富　正治 山田　誠	武富　正治 山田　誠	武富　正治 山田　誠	会計監査
石川　みさ 泉山　知威 岩楯　勝子 木村　妙子 桑原　能三 小泉　佐内 小林　孟史 小脇　正史 笹川　浩 鈴木　澄雄 髙橋　政時 東野　榮夫 林田　洋子 堀　和正	石川　みさ 泉山　知威 市村　正樹 稲毛　秀男 井上　慶典 君塚　清江 木村　妙子 小泉　佐内 小林　孟史 小脇　正史 笹川　浩 鈴木　澄雄 林田　洋子 山田　洋司	泉山　知威 市村　正樹 石川　みさ 糸賀　久夫 井上　慶典 川下　俊之 木村　妙子 佐久間武和 小泉　佐内 小林　和夫 林田　洋子 小林　孟史 笹川　浩 柴田千恵子 中田　青攻 長谷川　茂 牧山　幸子 山田　洋司	阿部　博光 石川　勇吉 糸賀　久夫 榎木　幹夫 木村　妙子 小泉　佐内 小林　孟史 笹川　浩 柴田千恵子 竹田　文夫 綱島　好治 長谷川　茂 林田　洋子 牧山　幸子 川下　俊之	石川　勇吉 小林　孟史 荒井　嘉一 石川　みさ 糸賀　久夫 岩崎　忠 鵜沢　志郎 神沢　達行 木村　妙子 窪田　一恵 小泉　佐内 島崎　隆 須藤　芳子 綱島　好治 林田　洋子 室川　義信 柳　光夫	池井　弘 糸賀　久夫 小川　康利 川下　俊之 木村　妙子 草間　和男 小泉　佐内 小林　孟史 佐藤藤次郎 林田　洋子 矢口　裕一 矢島　雅昭 柳　光夫 和田　雄二 石川　みさ 窪田　一恵 時佐　千夫	秋山　順子 池井　弘 石原　忠敏 糸賀　久夫 大貫　裕康 草間　和男 小泉　佐内 小林　孟史 笛　智子 森　義昭 矢口　裕一 矢沢　輝之 渡辺多加代	秋山　順子 池井　弘 石原　忠敏 糸賀　久夫 大貫　裕康 草間　和男 小泉　佐内 小林　孟史 笛　智子 森　義昭 矢口　裕一 矢沢　輝之 渡辺多加代	常任幹事
								相談役

1996(H8)	1995(H7)	1994(H6)	1993(H5)	1992(H4)	1991(H3)	1990(H2)	1989(H1)	年　度
竹田　文夫	竹田　文夫	竹田　文夫	泉山　知威	泉山　知威	泉山　知威	泉山　知威	泉山　知威	会　長
一ノ清　明 糸賀　久夫 高橋勇二郎 堀　和正 柳　光夫	一ノ清　明 糸賀　久夫 高橋勇二郎 堀　和正 柳　光夫	一ノ清　明 糸賀　久夫 高橋勇二郎 中田　青攻 堀　和正 柳　光夫	一ノ清　明 木村　妙子 高橋勇二郎 竹田　文夫 中田　青攻 柳　光夫	一ノ清　明 糸賀　久夫 木村　妙子 高橋勇二郎 竹田　文夫 柳　光夫	一ノ清　明 糸賀　久夫 木村　妙子 高橋勇二郎 竹田　文夫 柳　光夫	一ノ清　明 糸賀　久夫 高橋勇二郎 柳　光夫	一ノ清　明 糸賀　久夫 高橋勇二郎 柳　光夫	副会長
森　義昭	森　義昭	森　義昭	森　義昭	森　義昭	森　義昭	森　義昭	森　義昭	事務局長
木村　妙子	木村　妙子	草間　和男	草間　和男	石川　みさ 草間　和男	石川　みさ 草間　和男	草間　和男 竹田　文夫	草間　和男 竹田　文夫	事務局次長
井上　寧枝	井上　寧枝	井上　寧枝	本間　正良	中田　青攻	中田　青攻	中田　青攻	中田　青攻	会　計
田中　省二 稲葉　年男	稲毛　秀男 田中　省二	稲毛　秀男 鈴木　和雄	飯塚　行雄 鈴木　和雄	飯塚　行雄 福本　敦	島津　博和 福本　敦	島津　博和 田中　克人	石川　豊彦 田中　克人	会計監査
浅岡　正義 阿部　和顕 小川　嗣雄 小田原庸吉 金子　智 軽部　和之 川島　桂輔 北郷　信之 北爪　勇 久保　正業 工藤　孝一 黒田　展夫 小泉　佐内 佐々木利喜栄 篠原　孝昭 清水　功一 下島　正資 鈴木　勇 鈴木　啓市 鷹野喜久之輔 納島　慶吉 野口　能嗣 橋本　光吉 原　三代吉 森田　廣明 谷地　武廣 山田　秀行	小川　嗣雄 小田原庸吉 金子　智 軽部　和之 川島　桂輔 北郷　信之 北爪　勇 北原　悟 久保　正業 工藤　孝一 小泉　佐内 佐々木利喜栄 篠原　孝昭 鈴木　勇 東野　榮夫 原　三代吉 森田　廣明 谷地　武廣 山田　秀行 吉田　英和	岩本美津枝 金子　智 軽部　和之 川島　桂輔 北爪　勇 木村　妙子 久保　正業 小泉　佐内 鈴木　勇 東野　榮夫 本間　正良 森田　廣明 山田　秀行 吉田　英和 吉本　義行	糸賀　久夫 井上　寧枝 岩本美津枝 榎本　満次 軽部　和之 金子　智 川島　桂輔 北爪　勇 小泉　佐内 東野　榮夫 林田　洋子 堀　和正 森田　広明 山田　秀行 吉田　英和 吉本　義行	井上　寧枝 岩本美津枝 榎本　満次 軽部　和之 金子　智 川島　桂輔 小泉　佐内 笹川　浩 髙橋　政時 東野　榮夫 林田　洋子 堀　和正 本間　正良 谷地　武廣 山田　秀行 吉田　英和 (オブザーバー) 奥野い久代	井上　寧枝 岩田　貞子 岩本美津枝 榎本　満次 大年可南子 軽部　和之 金子　智 河村　朝史 小泉　佐内 笹川　浩 髙橋　政時 東野　榮夫 林田　洋子 堀　和正 本間　正良 谷地　武廣 山田　秀行 川島　桂輔	井上　寧枝 金子　智 小泉　佐内 笹川　浩 髙橋　政時 東野　榮夫 林田　洋子 堀　和正 本間　正良 谷地　武廣 山田　秀行 石川　みさ 有吉　和雄 春日　美夫 川島　桂輔 木村　妙子 小林　孟史 武内千代子 村上　ひろ	石川　みさ 市村　正樹 井上　慶典 岩楯　勝子 春田　美夫 金子　智 木村　妙子 小泉　佐内 小林　孟史 笹川　浩 佐々木公男 鈴木　澄雄 髙橋　政時 東野　榮夫 林田　洋子 堀　和正 本間　正良 牧山　洋子 森戸　潔 谷地　武廣 山田　秀行	常任幹事
泉山　知威	泉山　知威	泉山　知威					石川　勇吉	相談役

2004(H16)	2003(H15)	2002(H14)	2001(H13)	2000(H12)	1999(H11)	1998(H10)	1997(H9)	年　度
榊原　靖夫	榊原　靖夫	渡辺　忠志	糸賀　久夫	糸賀　久夫	糸賀　久夫	糸賀　久夫	糸賀　久夫	会　長
軽部　和之 藤原　　実	小川　嗣雄 押山　大作 藤原　　実	押山　大作 榊原　靖夫 佐々木利喜栄 原　三代吉 藤原　　実	森田　廣明 一ノ清　明 今井　　功 北爪　　勇 高橋勇二郎 原　三代吉 藤原　　実 堀　　和正 渡辺　忠志	一ノ清　明 小川　嗣雄 北爪　　勇 高橋勇二郎 原　三代吉 藤原　　実 森田　廣明 柳　　光夫 渡辺　忠志	一ノ清　明 小川　嗣雄 北爪　　勇 小泉　佐内 高橋勇二郎 原　三代吉 堀　　和正 森田　廣明 柳　　光夫	一ノ清　明 北爪　　勇 小泉　佐内 高橋勇二郎 堀　　和正 柳　　光夫	一ノ清　明 北爪　　勇 小泉　佐内 高橋勇二郎 堀　　和正 柳　　光夫	副会長
木村　妙子 (代行)	森　　義昭	森　　義昭	森　　義昭	森　　義昭	森　　義昭	森　　義昭	森　　義昭	事務局長
小関　盛通	木村　妙子 田中　助成	木村　妙子 田中　助成	木村　妙子 田中　助成	小田原庸吉 木村　妙子	小田原庸吉 木村　妙子	木村　妙子	木村　妙子	事務局次長
井上　寧枝	井上　寧枝	井上　寧枝	井上　寧枝	井上　寧枝	井上　寧枝	井上　寧枝	井上　寧枝	会　計
瀬賀　康平 大場　邦子	瀬賀　康平 広瀬　憩子	梅原　伸之 佐藤　行成	加藤　　要 梅原　伸之	加藤　　要 松下よう子	篠原　栄一 松下よう子	稲葉　年男 鈴木　　勇	稲葉　年男 鈴木　　勇	会計監査
朝日　美保 阿部　敏弘 生井　克子 一川　和夫 井上　信義 押山　大作 小野　協子 大畑　ハナ 木下　久吉 久保　正業 小林　　敬 佐藤　歳夫 澤田　載子 白土　光一 曽根　啓之 田中　助成 東野　榮夫 戸倉　振一 富山　光子 野口美津枝 蛭田　範博 吉田　芳子	阿相　利夫 生井　克子 一川　和夫 小野　協子 軽部　和之 木下　久吉 久保　正業 小関　盛通 佐々木利喜栄 澤田　載子 白土　光一 杉本　五男 東野　榮夫 戸倉　振一 富山　光子 野口美津枝 蛭田　範博 吉田　芳子 渡辺　忠志 阿部　敏弘 (オブザーバー) 朝日　美保 佐々木勝利	生井　克子 一川　和夫 一ノ清　明 小川　嗣雄 小田原庸吉 小野　協子 軽部　和之 木下　久吉 久保　正業 小泉　佐内 髙橋勇二郎 戸倉　振一 東野　榮夫 富山　光子 野口美津枝 納島　慶吉 堀　　和正 柳　　光夫 吉田　芳子 (オブザーバー) 阿部　敏弘 小関　盛通 渡辺　千晃	会津　　一 生井　克子 石川　秀雄 一川　和夫 小川　嗣雄 押山　大作 小田原庸吉 小野　協子 金子　　智 軽部　和之 木下　久吉 久保　正業 小泉　佐内 榊原　靖夫 工藤　　歩 佐々木利喜栄 東野　榮夫 富山　光子 納島　慶吉 野口美津枝 星野　祐介 柳　　光夫 山田　秀行 吉田　芳子 (オブザーバー) 戸倉　振一	会津　　一 生井　克子 今井　　功 押山　大作 小野　協子 金子　　智 軽部　和之 久保　正業 小泉　佐内 榊原　靖夫 工藤　　歩 佐々木利喜栄 清水　国衛 田中　助成 東野　榮夫 納島　慶吉 星野　祐介 堀　　和正 山田　秀行 吉田　芳子	相田　勝三 生井　克子 今井　　功 押山　大作 小野　協子 金子　　智 軽部　和之 久保　正業 榊原　靖夫 佐々木利喜栄 清水　功一 下島　正資 田中　助成 東野　榮夫 納島　慶吉 藤原　　実 星野　祐介 山田　秀行 渡辺　忠志	浅岡　正義 阿部　和顕 生井　克子 池田たか子 小川　嗣雄 小田原庸吉 小野　協子 金子　　智 工藤　孝一 久保　正業 黒田　展夫 佐々木利喜栄 清水　功一 下島　正資 須藤　正夫 田中　助成 東野　榮夫 納島　慶吉 原　三代吉 藤原　　実 森田　廣明 山田　秀行 渡辺　忠志	浅岡　正義 阿部　和顕 池田たか子 小川　嗣雄 小田原庸吉 金子　　智 軽部　和之 川島　桂輔 北郷　信之 工藤　孝一 久保　正業 黒田　展夫 佐々木利喜栄 清水　功一 下島　正資 鈴木　啓市 東野　榮夫 納島　慶吉 原　三代吉 森田　廣明 谷地　武廣 山田　秀行	常任幹事
糸賀　久夫 一ノ清　明 小泉　佐内 髙橋勇二郎 堀　　和正 柳　　光夫 森　　義昭	糸賀　久夫 一ノ清　明 小泉　佐内 高橋勇二郎 原　三代吉 堀　　和正 柳　　光夫	糸賀　久夫		泉山　知威	泉山　知威	泉山　知威	泉山　知威	相談役

2011(H23)	2010(H22)	2009(H21)	2008(H20)	2007(H19)	年　度	2006(H18)	2005(H17)	年　度
木下　久吉	木下　久吉	木下　久吉	榊原　靖夫	榊原　靖夫	会　長	榊原　靖夫	榊原　靖夫	会　長
戸倉　振一 小野　誠 須賀　春美	戸倉　振一 小野　誠 須賀　春美	戸倉　振一 小野　誠 須賀　春美	木下　久吉 戸倉　振一	木下　久吉 戸倉　振一	副会長	木下　久吉 戸倉　振一 藤原　実	木下　久吉 戸倉　振一 藤原　実	副会長
小関　盛通	小関　盛通	小関　盛通	小関　盛通	小関　盛通	事務局長	小関　盛通	小関　盛通	事務局長
岸里　悟					事務局次長	木村　妙子	木村　妙子	事務局次長
軽部　和之	軽部　和之	軽部　和之	軽部　和之	軽部　和之	会　計	井上　寧枝	井上　寧枝	会　計
篠原　栄一 糸賀　久夫	篠原　栄一 森　義昭	篠原　栄一 森　義昭	篠原　栄一 森　義昭	篠原　栄一 森　義昭	監　事	篠原　栄一 森　義昭	大場　邦子	会計監査
石田　健郎 糸　修 梅原　秀孝 押山　大作 金井　信憲 木村　妙子 久保　正業 榊原　靖夫 新見　範彦 中村　博 藤田　吉彦 古木　直之 吉澤　正雄 吉田　芳子 山口　登 (オブザーバー) 小野　協子 齊藤　和巳 宿野部武志 麓　卓治 桃田　数重	石田　健郎 石山久美子 糸　修 梅原　秀孝 押山　大作 金井　信憲 岸里　悟 木村　妙子 久保　正業 斉藤　稔 榊原　靖夫 新見　範彦 田中　助成 中村　博 藤田　吉彦 古木　直之 吉澤　正雄 吉田　芳子 山口　登 (オブザーバー) 髙橋　真次	石井　虎二 石山久美子 糸　修 梅原　秀孝 押山　大作 金井　信憲 岸里　悟 木村　妙子 久保　正業 小泉　剛 榊原　靖夫 新見　範彦 田中　助成 中村　博 古木　直之 吉澤　正雄 吉田　芳子 山口　登 (オブザーバー) 石田　健郎 藤田　吉彦 横山　邦子	石井　虎二 石山久美子 井上　寧枝 押山　大作 小野　誠 菊地　貞夫 岸里　悟 木村　妙子 久保　正業 黒田　文夫 小林　敬 澤田　載子 須賀　春美 田河内　乙 田中　助成 中村　博 蛭田　範博 古木　直之 吉澤　正雄 吉田　芳子 (オブザーバー) 斉藤　稔 鈴木　敏雄 新見　範彦 金井　信憲 鈴木　芳信 小泉　剛 糸　修 山口　登 梅原　秀孝 池谷　匠 海野　尚志	石井　虎二 石山久美子 井上　寧枝 押山　大作 小野　誠 菊地　貞夫 木村　妙子 黒田　文夫 久保　正業 小林　敬 澤田　載子 須賀　春美 田中　助成 蛭田　範博 古木　直之 吉澤　正雄 吉田　芳子 (オブザーバー) 岸里　悟 桑原　俊博 田河内　乙 中村　博	理　事	石井　虎二 石山久美子 押山　大作 小野　協子 菊地　貞夫 黒田　文夫 久保　正業 小林　敬 澤田　載子 田中　助成 蛭田　範博 古木　直之 吉澤　正雄 吉田　芳子 須賀　春美	阿部　敏弘 安保　敏夫 石井　虎二 石山久美子 押山　大作 小野　協子 軽部　和之 菊地　貞夫 久保　正業 黒田　文夫 小林　敬 澤田　載子 田中　助成 東野　榮夫 富山　光子 蛭田　範博 古木　直之 吉澤　正雄 吉田　芳子 (オブザーバー) 須賀　春美	常任幹事
一ノ清　明 森　義昭	一ノ清　明 糸賀　久夫	一ノ清　明 糸賀　久夫	一ノ清　明 糸賀　久夫	一ノ清　明 糸賀　久夫 藤原　実	相談役	一ノ清　明 糸賀　久夫	糸賀　久夫 一ノ清　明 髙橋勇二郎 柳　光夫 森　義昭	相談役

2019(H31、R1)	2018(H30)	2017(H29)	2016(H28)	2015(H27)	2014(H26)	2013(H25)	2012(H24)	年　度
戸倉　振一	梅原　秀孝	梅原　秀孝	梅原　秀孝	藤田　吉彦	藤田　吉彦	藤田　吉彦	木下　久吉	会　長
古暮　宏 梅原　秀孝 榊原　靖夫 酒井　豊	戸倉　振一 古暮　宏	戸倉　振一 小野　誠	小野　誠 戸倉　振一	小野　誠 戸倉　振一	小野　誠 戸倉　振一 須賀　春美 梅原　秀孝	小野　誠 戸倉　振一 須賀　春美 梅原　秀孝	戸倉　振一 小野　誠 須賀　春美	副会長
板橋　俊司	板橋　俊司	板橋　俊司	板橋　俊司	岸里　悟	岸里　悟	岸里　悟	小関　盛通	事務局長
三好かおり	白坂　徹夫	白坂　徹夫	白坂　徹夫	板橋　俊司 (10月より 事務局長)			岸里　悟	事務局次長
三好かおり	白坂　徹夫	白坂　徹夫	白坂　徹夫	白坂　徹夫	白坂　徹夫	軽部　和之	軽部　和之	会　計
山口　登 岡田　和友	糸賀　久夫 山口　登	糸賀　久夫 山口　登	山口　登	小関　盛通 山口　登	小関　盛通 山口　登	小関　盛通 山口　登	篠原　栄一 糸賀　久夫	監　事
金井　信憲 野口　忠男 鈴木　明彦 長澤　浩 須賀　春美 松本　茂利 長井久美子 中野　雄蔵 村越　京子 山田　裕美 根津　恵子 小林　正和 関口　新一 横溝久美子	金井　信憲 齊藤　和巳 酒井　豊 榊原　靖夫 須賀　春美 杉崎憲三郎 鈴木　明彦 住安　重 中野　雄蔵 中村　博 長井久美子 永見　明子 松本　茂利 三好かおり 村越　京子 山田　裕美	金井　信憲 工藤　育夫 古暮　宏 齊藤　和巳 酒井　豊 榊原　靖夫 須賀　春美 杉崎憲三郎 鈴木　明彦 住安　重 田崎　勲 中野　雄蔵 中村　博 長井久美子 永見　明子 松本　茂利 三好かおり 村門日出雄 村越　京子 山田　裕美	遠藤　博迪 金井　信憲 工藤　育夫 齊藤　和巳 酒井　豊 榊原　靖夫 清水　陽介 須賀　春美 杉崎憲三郎 田崎　勲 中村　博 長井久美子 村越　京子 (オブザーバー) 中野　雄蔵 村門日出雄 住安　重 鈴木　明彦 三好かおり 松本　茂利 古暮　宏	梅原　秀孝 金井　信憲 工藤　育夫 齊藤　和巳 酒井　豊 榊原　靖夫 坂本　悦男 清水　陽介 須賀　春美 關戸　千尋 田崎　勲 中村　博 長井久美子 吉田　芳子 (オブザーバー) 新見　範彦 杉崎憲三郎 村越　京子	飯箸孝太郎 石井　虎二 板橋　俊司 金井　信憲 齊藤　和巳 酒井　豊 榊原　靖夫 坂本　悦男 清水　陽介 宿野部武志 田崎　勲 中村　博 古木　直之 吉澤　正雄 吉田　芳子 (オブザーバー) 工藤　育夫 關戸　千尋 長井久美子 桃田　数重	飯箸孝太郎 石井　虎二 板橋　俊司 糸　修 金井　信憲 齊藤　和巳 榊原　靖夫 宿野部武志 中村　博 麓　卓治 古木　直之 吉澤　正雄 吉田　芳子 (オブザーバー) 市川　徹 酒井　豊 坂本　悦男 田崎　勲 清水　陽介	石田　健郎 糸　修 梅原　秀孝 金井　信憲 木村　妙子 久保　正業 榊原　靖夫 中村　博 藤田　吉彦 古木　直之 吉澤　正雄 吉田　芳子 山口　登 齊藤　和巳 宿野部武志 麓　卓治 (オブザーバー) 板橋　俊司 飯箸孝太郎	理　事
					森　義昭 木下　久吉	一ノ清　明 森　義昭 木下　久吉	一ノ清　明 森　義昭	相談役

2022（R４）	2021（R３）	2020（R２）	年　度
戸倉　振一	戸倉　振一	戸倉　振一	会　長
古暮　　宏 酒井　　豊 須賀　春美	古暮　　宏 榊原　靖夫 酒井　　豊 須賀　春美	古暮　　宏 梅原　秀孝 榊原　靖夫 酒井　　豊	副会長
板橋　俊司	板橋　俊司	板橋　俊司	事務局長
三好かおり	三好かおり	三好かおり	事務局次長
三好かおり	三好かおり	三好かおり	会　計
山口　　登 梅原　秀孝	山口　　登 梅原　秀孝	山口　　登 岡田　和友	監　事
金井　信憲 野口　忠男 長澤　　浩 松本　茂利 根津　恵子 小林　正和 関口　新一 横溝久美子 成田　哲也 丸山　春良 岡田　和友 大友　晴雄	金井　信憲 野口　忠男 長澤　　浩 松本　茂利 根津　恵子 小林　正和 関口　新一 横溝久美子 成田　哲也 丸山　春良 岡田　和友	金井　信憲 野口　忠男 長澤　　浩 須賀　春美 松本　茂利 中野　雄蔵 村越　京子 山田　裕美 根津　恵子 小林　正和 関口　新一 横溝久美子	理　事
金子　　智			相談役

NPO東腎協に入会している
透析施設患者会一覧

（2023年３月現在）

23区ブロック

千代田区	秋葉原腎クリニック腎友会
	小笠原クリニック友の会
	聖橋クリニック腎友会
新宿区	松和患者会西新宿支部
大田区	大田病院腎友会
港区	虎の門・高津会本院
渋谷区	代々木病院腎友会
	松和患者会新宿南口支部
世田谷区	腎内科クリニック世田谷患者友の会
大島町	大島腎友会
杉並区	阿佐谷すずき腎友会
	寺田病院腎友会
	桃井診療所腎友会
	河北透析クリニック腎友会
	高松医院患者会
練馬区	練馬桜台クリニックさくら会
	優人クリニック患者会
	優人大泉学園クリニック患者会
	赤羽中央病院腎センター腎友会
北区	田端駅前クリニック患者会ｏａｓｉｓ
板橋区	高中腎友会
	あかまつ透析クリニック患者会
中野区	中野クリニック腎友会
	中野共立病院腎友会・絆の会
	新中野フェニックス会
文京区	東京健生病院サボテン会
台東区	西クリニックひまわりの会
足立区	勝和なごみ会
	東和透析クリニック腎友会
	柳原腎クリニック健腎会
	にしあらい生活習慣病クリニック
	新小岩クリニック友の会（新小岩）
葛飾区	金町中央病院患者会

23区ブロック

江戸川区	新小岩クリニック友の会（船堀）
	東葛クリニック小岩
	瑞江腎クリニック友の会
	森山友の会
	内科　親水友の会
墨田区	菊川橋クリニック腎友会
	新江東橋クリニック腎友会
	清湘会記念病院腎友会
江東区	清湘会東砂病院腎友会
	深川橋クリニック腎友会

多摩ブロック

八王子市	あけぼのクリニックいちょう会
	八王子東町クリニック桑の実会
	高尾もみじ会
	めじろ台西澤クリニックめじろ会
府中市	村上医院ひまわり会
	府中けやき会
町田市	あけぼの東腎会サルビア
多摩市	永山腎友会
日野市	日野腎友会（日野・豊田・高幡・百草）
	平山腎友会
昭島市	昭島腎クリニックひまわり会
国分寺市	国分寺こやま腎友会
	立花クリニック友の会
	すながわ相互診療所患者会いずみ
立川市	立川北口駅前腎友会
	ふれあい相互病院透析患者会「希望会」
	長久保ハナミズキ会
国立市	くにたち桜会
羽村市	羽村相互診療所たんぽぽの会
武蔵野市	吉祥寺あさひ腎友会
三鷹市	杏林腎友会
西東京市	田無南口クリニック腎友会
	保谷腎友会
清瀬市	織本病院腎友会

50年以上透析会員のお名前

会員名	透析導入年月日		患者会・個人会員
高藤　アツ子	1972年9月27日	(50年)	腎内科クリニック世田谷患者友の会
糸賀　久夫	1972年12月1日	(50年)	個人会員
篠原　栄一	1972年4月19日	(50年)	新中野フェニックス会
堀口　誠	1972年7月12日	(50年)	個人会員

40年以上透析会員のお名前

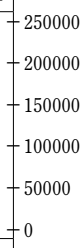
会員名	透析導入年月日		患者会・個人会員
奥住　敦男	1982年3月5日	(40年)	個人会員
相馬　貴美子	1982年10月25日	(40年)	平山腎友会
小林　ひさ子	1982年2月15日	(40年)	昭島腎クリニックひまわり会
宜野座　安堅	1981年10月15日	(41年)	昭島腎クリニックひまわり会
中山　信弘	1980年6月6日	(42年)	個人会員
工藤　松太郎	1979年7月9日	(43年)	東京健生病院サポテン会
石川　剛正	1977年6月30日	(45年)	高松医院患者会
篠崎　久子	1977年2月18日	(45年)	清湘会東砂病院腎友会
酒詰　孝子	1976年4月15日	(46年)	金町中央病院患者会
秋庭　啓代	1973年10月7日	(47年)	昭島腎クリニックひまわり会

30年以上透析会員のお名前

会員名	透析導入年月日		患者会・個人会員
浅川　萬喜子	1992年1月	(30年)	ふれあい相互病院透析室患者会希望会
茂木　和恵	1992年7月1日	(30年)	虎の門・高津会
當　喜美子	1992年1月28日	(30年)	新小岩クリニック友の会船堀
原田　マサエ	1991年3月16日	(31年)	個人会員
小川　典之	1991年5月1日	(31年)	昭島腎クリニックひまわり会
佐藤　由紀江	1991年7月1日	(31年)	聖橋クリニック腎友会
渡辺　美和子	1991年6月3日	(31年)	清湘会記念病院腎友会
太田　裕章	1991年11月15日	(31年)	西クリニックひまわりの会
丸山　みち子	1990年6月27日	(32年)	立川北口駅前腎友会
長田　友紀子	1990年7月2日	(32年)	日野クリニック腎友会
阿部　広行	1990年5月30日	(32年)	個人会員
髙野　太郎	1990年3月20日	(32年)	個人会員
石山　久美子	1990年1月28日	(32年)	個人会員
宗像　聡之	1990年3月13日	(32年)	森山友の会
下久保　利春	1990年3月22日	(32年)	吉祥寺あさひ腎友会
小川　眞理子	1990年3月26日	(32年)	永山腎友会
林　勝則	1990年12月30日	(32年)	聖橋クリニック腎友会
髙橋　雍子	1989年9月18日	(33年)	個人会員
野寺　和枝	1989年6月	(33年)	森山友の会
川嵜　和代	1989年9月30日	(33年)	昭島腎クリニックひまわり会
榎本　美津枝	1988年4月	(34年)	個人会員
荒井　豊	1988年10月11日	(34年)	虎の門・高津会
腰塚　三津子	1988年2月	(34年)	長久保ハナミズキ会

会員名	透析導入年月日		患者会・個人会員
岩城　雅子	1988年7月22日	(34年)	高松医院患者会
富沢　裕子	1988年8月23日	(34年)	聖橋クリニック腎友会
青木　厚子	1987年2月4日	(35年)	個人会員
鈴木　和子	1987年2月9日	(35年)	森山友の会
宿野部　武志	1987年2月9日	(35年)	腎内科クリニック世田谷患者友の会
細田　貴代美	1987年10月26日	(35年)	織本病院腎友会
道岡　勝人	1987年6月1日	(35年)	虎の門・高津会
戸沢　幸子	1987年7月31日	(35年)	聖橋クリニック腎友会
相原　秀子	1987年3月31日	(35年)	清湘会東砂病院腎友会
豊田　俊昭	1986年10月17日	(36年)	昭島腎クリニックひまわり会
安斉　和栄	1989年2月	(36年)	聖橋クリニック腎友会
岩崎　伸一	1989年3月22日	(36年)	清湘会記念病院腎友会
永井　昌平	1989年11月	(36年)	柳原腎クリニック健腎会
倭文　茂好	1985年9月	(37年)	八王子東町クリニック桑の実会
古賀　高廣	1985年8月20日	(37年)	織本病院腎友会
田中　洋子	1985年10月16日	(37年)	清湘会東砂病院腎友会
井上　信一	1984年1月5日	(38年)	虎の門・高津会
曽我　順子	1984年9月17日	(38年)	高松医院患者会
佐藤　守	1983年12月3日	(39年)	織本病院腎友会
佐藤　陽子	1983年2月5日	(39年)	聖橋クリニック腎友会
田中　美紀子	1983年5月28日	(39年)	大田病院腎友会
竹島　とも子	1983年7月	(39年)	柳原腎クリニック健腎会

1998	2000	2002	2004	2006	2008	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	備考
H10年	H12年	H14年	H16年	H18年	H20年	H22年	H24年	H26年	H28年	H30年	R２年	R４年	
¥195,500	¥196,900	¥198,500	¥198,300	¥199,800	¥198,800								4時間透析の点数比較
2,110	2,110	1,960	1,960	2,250	2,267	2,235	2,205	2,195	2,175	2,140	2,084	2,005	
→	→	時間区分廃止	→	EPO包括	時間区分復活	→	→	→	→	→	→	→	
5180	3530	3190	2800	2660	2020	1940	1870	1830	1740	1630	1620	1620★	ホローファイバー型機能分類の最高区分点数記載を記載（材料費として円で表記）★（他では－50円～±０）
500	500	500	500	300	300	300	300	300	300	380	380	380	
500	500	500	500	300	300	300	300	300	300	380	380	380	
300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	200	200	
										400	500	500	
63	63	包括											
						10	10	10	10	8	10	10	
										20			
120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	140	140	140	
2,900	2,800	2,670	2,460	2,305	2,305	2,305	2,305	2,250	2,250	2,250	2,250	2,211	
		時間区分廃止		夜間・休日加算下げ	時間区分復活								
185,322	206,134	229,538	248,166	264,473	283,421	298,252	310,007	320,448	329,609	339,841	347,671		



・2002 人工腎臓の包括化
・2006 エリスロポエチンの包括化
・2006 ダイアライザーの再機能分け
・2008 人工腎臓５時間以上を設置
・2012 看護基準13対１、15対１が特定除外制度廃止
・2014 看護基準７対１、10対１が特定除外制度廃止
・2014 療養病床基準１に加算の新設

・現在、透析費用は月40～50万円程で患者負担は殆ど無い

・1998年在宅透析が健康保険適用に
・2000年２月　都庁座り込みと人間のくさり都庁包囲行動参加（マル都、マル障医療券廃止防止）
・2001年国民健康保険に海外療養費制度創設
・2002年食事加算の廃止
・2005年特別障害者給付金が創設される
・2006年障害基礎年金と老齢厚生年金の併給が可能に
・2009年臓器移植法改正
・2010年透析液水質確保加算

○2009～　木下　久吉　10代目会長
○2014～　藤田　吉彦　11代目会長
○2017年～梅原　秀孝　12代目会長
○2002～2003　渡邉　忠志　８代目会長
○2019年～戸倉　振一　13代目会長
○2003～2009　榊原　靖夫　９代目会長

西暦	1967	1972	1974	1978	1981	1983	1985	1986	1988	1990	1992	1994	1996	1997
元号	S42年	S47年	S49年	S53年	S56年	S58年	S60年	S61年	S63年	H２年	H４年	H６年	H８年	H９年
人工腎臓点数 1点＝10円	920	1,540	2,150	4,000	¥120,800	¥132,200	¥140,000	¥144,500	¥153,100	¥169,900	¥186,900	¥192,400	¥193,200	¥193,900
大卒の初任給（厚生労働省）	¥26,200	¥49,900	¥67,400	¥105,500	2,000	2,000	1,800	1,700	1,700	1,700	1,700	2,100	2,080	2,110
透析液	使用量	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	ヘパリン・生食等包括	時間区分設定	→
生理食塩水	使用量													
抗凝固剤	使用量													
ダイアライザー	購入価格	→	→	ダイアライザー包括	9600	8600	8100	8,100	7600	7100	6200	5250	4750	5650
減菌加算					30	30	30	30	30	15	15	15	15	廃止
加算														
夜間				150	400	400	400	500	500	500	500	500	500	500
休日										500	500	500	500	500
導入期１							300	300	300	300	300	300	300	300
導入期２														
食事					50	50	50	60	60	62	63	63	63	63
水処理									30	30	30	技術料へ包括		
除水調整器												30	30	技術料へ包括
透析液水質確保１														
透析液水質確保２														
障害者											100	120	120	120
外来医学管理料											2,500	2,500	2,500	2,500
備考		更生医療適用			大幅削減		４時間枠区分			EPO保険適用	検査包括	薬剤包括	５時間枠区分	減菌・除水調整包括
透析患者数（人）	1968年 215人	3,631	9,245	27,048	42,223	53,017	66,310	73,537	88,534	103,296	123,926	143,709	167,192	175,968

透析の変遷

- 1967 透析費（キール型）￥21,600
- 1967 透析費（コイル型）￥34,250
- 1968 人工腎台数105台　透析患者215人
- 1970　〃　335台　〃　514人
- 1970 12末 器械660台で、透析患者1000人
- 1971 全国の腎不全ー尿毒症による死亡者数１万人～１万２千人
- 1974 フォローファイバー型（中空糸型）が登場
  →日本では、旭化成、帝人など大手合繊メーカーがダイアライザーに乗り出す。
  一回の透析時間が10時間から５時間に短縮。透析回数は週２回から３回へと。
- 1975頃 ダイアライザー価格　約１万８千円
- 1977 S52年頃 ダイアライザー価格 約１万５千円
- 1981 ダイアライザーの型と面積で分類
- 1984 CAPD保険適用
- 1985 人工腎臓４時間未満と４時間以上に区分
- 1992 慢性維持透析患者外来医学管理料を新設（検査の包括化）
- 1992 障害者加算を新設
- 1994 透析液、血液凝固阻止剤、生理食塩水の包括化
- 1996 人工腎臓５時間以上を新設
- 1996 ダイアライザの機能分け
- 1996 在宅血液透析管理料を新設

患者負担額

- 昭和42年頃、透析治療費は月50～70万円かかり、健康保険しか適用されなかった。

全腎協・東腎協活動と主な成果

- 1967年健康保険適用（健保本人10割給付、家族５割、国保７割給付）
- 1971年全国腎臓病患者連絡協議会設立
- 1971年都立大久保病院に人工透析機を13台設置
- 1972年東京都腎臓病患者連絡協議会設立
- 1972年都予算に初めて腎疾患対策費として２億５千万円の予算を計上
- 1972年人工腎臓療法が更生医療・育成医療の適用に
- 1973年小児慢性腎疾患も医療費助成対象に
- 1974年心身障害者（1,2級）の医療費助成
- 1974年心身障害者福祉手当支給
- 1974年小中校生の検尿が義務化
- 1976年ネフローゼ症候群、難病指定に（東京都単独）
- 1977年全国初の腎バンク設立
- 1978年腎移植が更生医療・育成医療の適用に
- 1984年CAPDが健康保険、更生医療・育成医療の適用に、CAPD患者に加温器給付
- 1984年人工透析を特定疾病療養受療証適用
- 1986年多発性嚢胞腎難病指定に（東京都単独）
- 1990年内部障害者にも、JR等の割引適用
- 1990年エリスロポエチンが保険適用に
- 1994年有料道路料金割引
- 1994年HDF（血液透析ろ過）が健康保険適用に
- 1995年日本腎臓移植ネットワーク稼働
- 1997年臓器移植法施行

歴代東腎協会長

○1972～1974　寺田　修治　初代会長
○1974～1976　石坂　一男　２代目会長
○1976～1985　宝生　和男　３代目会長
○1986～1989　石川　勇吉　４代目会長
○1989～1994　泉山　知威　５代目会長
○1994～1996　竹田　文夫　６代目会長
○1997～2002　糸賀　久夫　７代目会長

NPO法人　東腎協50周年おめでとうございます

NPO法人東京腎臓病協議会

会長　戸倉　振一
副会長　古暮　宏
同　酒井　豊
同　須賀　春美
事務局長　板橋　俊司
事務局次長　三好かおり
理事　大友　晴雄
同　岡田　和友
同　金井　信憲
同　小林　正和
同　関口　新一
同　長澤　浩
同　成田　哲也
同　根津　恵子
同　野口　忠男
同　松本　茂利
同　丸山　春良
同　横溝久美子
監事　山口　登
監事　梅原　秀孝
相談役　金子　智

50周年おめでとうございます

社会福祉法人　樹会「透析者入居できます」

特別養護老人ホーム　大井苑

理事長　富家　隆樹

〒356-0054　埼玉県ふじみ野市大井武蔵野1277-1
TEL　049(262)8686
FAX　049(256)5300

50周年おめでとうございます

社会福祉法人　樹会「透析者入居できます」

特別養護老人ホーム　四街道苑

理事長　富家　隆樹

〒284-0008　千葉県四街道市鹿放ヶ丘593-3
TEL　043(304)8161
FAX　043(304)8163

創立50周年、誠におめでとうございます

医療法人財団

きよせ旭が丘記念病院

理事長　髙木　由利

〒204-0002　東京都清瀬市旭が丘1-619-15
TEL　042(491)2121
FAX　042(491)6653

50周年おめでとうございます

社会医療法人社団　健生会

羽村相互診療所

所長　小林　重雄

〒205-0023　東京都羽村市神明台1-30-5
TEL　042(554)5420
FAX　042(555)3151

50周年、誠におめでとうございます

社会医療法人社団　健生会

すながわ相互診療所

所長　小泉　博史

〒190-0002　東京都立川市幸町5丁目9番2号
TEL　042(538)1502

医療法人社団

菊川橋クリニック

院長　古川　猛

〒130-0024　東京都墨田区菊川2-11-1
TEL　03(5600)2222
FAX　03(5600)0805

医療法人財団　健康文化会

小豆沢病院

院長　一瀬　隆広

〒174-8502　東京都板橋区小豆沢一丁目六番八号
TEL　03(3966)8411
FAX　03(3966)0151

医療法人社団　松和会

大泉学園クリニック

院長　草場　岳

〒178-0063　東京都練馬区東大泉5-40-24
サンダリオンビル3-5F
TEL　03(5947)5681

医療法人社団　松和会

望星西新宿診療所

院長　中尾　俊之

〒160-0023　東京都新宿区西新宿3丁目12番12号
TEL　03(5304)5655

医療法人社団　松和会
練馬高野台クリニック
院長　鈴木　重伸
〒177-0033　東京都練馬区高野台1-8-15
TEL 03(5372)6151

医療法人社団　秀佑会
東海病院
院長　江本　秀斗
〒176-0023　東京都練馬区中村北2丁目10番11号
TEL 03(3999)1131
FAX 03(3999)7027

腎クリニック高野台
院長　栗山　謙
〒177-0033　東京都練馬区高野台1丁目3番7号NFプラザⅡ3階
TEL 03(5910)3121
FAX 03(5910)3123

医療法人社団　松和会
望星新宿南口クリニック
院長　高橋　俊雅
〒151-0053　東京都渋谷区代々木2丁目9番2号久保ビル3階
TEL 03(3376)0191

医療法人社団　腎と水
新中野透析クリニック
院長　津田　信次
スタッフ一同
〒164-0012　東京都中野区本町3丁目23番3号新中野AM-Iビル1階
TEL 03(3370)8111
FAX 03(3370)8129

医療法人社団　駿昭会
飯田橋西口クリニック
院長　原澤　信介
〒102-0071　東京都千代田区富士見町2丁目13番16号上田ビル
TEL 03(3265)0203

医療法人社団　菅沼会
人工透析・夜間透析・在宅透析
腎内科クリニック世田谷
理事長・院長　菅沼　信也
〒157-0062　東京都世田谷区南烏山4丁目21番14号
TEL 03(5969)4976
FAX 03(5969)4970

医療法人社団　晴仁会
立川北口駅前クリニック
理事長　檜垣　昌夫
院長　石原　理裕
〒190-0012　東京都立川市曙町1丁目31番2号遠藤創進ビル三階
TEL 042(523)2299
FAX 042(523)2400

医療法人社団　心施会
理事長　杉崎　健太郎
TEL 042(366)8909
FAX 042(334)2601

府中腎クリニック
院長　篠村　裕之
〒183-0055　東京都府中市府中町1-8-1第7三ツ木ビル6F・7F
TEL 042(366)8909

南大沢パオレ腎クリニック
院長　岩本　八千代
〒192-0364　東京都八王子市南大沢2-2パオレ5F
TEL 042(677)4477

八王子東町クリニック
院長　小俣　百世
〒192-0082　東京都八王子市東町7-6　ダヴィンチ八王子7F・8F
TEL 042(646)6996

平山城址腎クリニック
院長　杉崎　健太郎
〒191-0043　東京都日野市平山5-38-1　平山城址公園駅前ビル
TEL 042(599)2311

医療法人社団　晴仁会
幸町腎クリニック
院長　渡辺賀寿雄
〒190-0004　東京都立川市柏町4丁目1番1号
TEL 042(536)3099
FAX 042(536)3269

練馬桜台クリニック
理事長　永野　正史
〒176-0012　東京都練馬区豊玉北4丁目11番9号
TEL 03(5999)0723
FAX 03(5999)0823

医療法人社団　松岳会
東武練馬クリニック
院長　目良　純一郎
〒175-0083　東京都板橋区徳丸3-11-2
TEL 03(5922)3530
FAX 03(5399)6880

移植医療が活発化するシステムを国に働きかけて行きましょう！
南青山内科クリニック
院長　鈴木　孝子
〒107-0062　東京都港区南青山7-8-8-101
TEL・FAX 03(6805)1836

医療法人社団　時正会
理事長　横川　秀男

エバラクリニック
院長　道端　哲郎
〒142-0062　東京都品川区小山5-9-1
TEL 03(3784)2101
FAX 03(3784)1001

旗の台小池クリニック
院長　古田　英美子
〒142-0064　東京都品川区旗の台5丁目8番23号　ファインコート旗の台101号室
TEL 03(5498)1681
FAX 03(5498)1682

自由が丘いずみクリニック
院長　新藤　優紀
〒152-0035　東京都目黒区自由が丘2丁目10番20号弥生ビル3階
TEL 03(5731)5771
FAX 03(5731)5773

池袋西口駅前クリニック
院長　山本　幸治
〒171-0021　東京都豊島区西池袋三丁目1番13号　西池袋パークフロントビル5階
TEL 03(5956)3557
FAX 03(5956)3558

医療法人社団　やよい会
あやせ駅前腎クリニック
院長　榎本　美穂
〒120-0005　東京都足立区綾瀬3丁目21番18号
TEL 03(5697)8281
FAX 03(5697)8282

医療法人社団やよい会
北千住東口腎クリニック
院長　大森　容子
〒120-0026　東京都足立区千住旭町9-16
TEL 03(5284)5101

50周年誠におめでとうございます
株式会社　東京在宅サービス
代表取締役　中野宏次郎
〒160-0022　東京都新宿区新宿1丁目5番4号YKBマイクガーデン201
TEL 03(3354)0341
FAX 03(3354)0373

ジープラン株式会社
代表取締役　長谷川　貴一
〒101-0032　東京都千代田区岩本町1-3-3
TEL 03(3864)1233
FAX 03(3864)1244

特定非営利活動法人（NPO）
通院移送センター　タンポポ
理事長　小野崎　勝
〒176-0012　東京都練馬区豊玉北4丁目12番13号ノイメゾン桜台1階
TEL 03(6751)7372
FAX 03(6751)7374
（携帯）090(3904)3386

株式会社　教宣文化社
代表取締役　成瀬　大輔
〒359-0012　埼玉県所沢市坂之下794
TEL 04(2944)4323
FAX 04(2946)0118

ad square
グリーンループ合同会社
〒107-0052　東京都港区赤坂2丁目12番地13号ぬのうらビル5F
TEL 03(6277)6580
FAX 03(3505)8508

扶桑薬品工業株式会社
東京第一支店
執行役員支店長　松井　幸信
〒103-0023　東京都中央区日本橋本町2丁目4番5号
TEL 03(5203)7101
FAX 03(5203)7088

エルピス株式会社
常務取締役　堀江　好美
〒532-0011　大阪市淀川区西中島4丁目6-29第3ユヤマビル201
TEL 06(6100)5010
FAX 06(6100)5020

結成50年誠におめでとうございます
あかつき印刷株式会社
代表取締役社長　大久保　豊
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷4の25の2　APビル
TEL 03(3497)0531
FAX 03(3497)0043

編集後記

編集委員・理事の皆さんに
一言述べていただきました

○30周年記念誌では、当時の透析歴30年の方々の座談会の編集を担当させていただき、長生きの秘訣や合併症への対応、患者会活動への思いを聞いた。それが今日でも仕事をしながらも患者会活動をしている原動力となっている。

お陰様で私も透析25年目を迎えようとしている。この間の患者会活動の関連で多くの出会いがあり、豊かな人生を送ることができたと思う。衰えを感じるこの頃ですが、次の世代が明るい未来となるように努力していきたい。（戸倉）

○東腎協結成50周年を迎えこの間、先輩会員、医療関係者、行政機関など多くの皆様のご尽力により、世界一と言われる透析医療と手厚い透析医療費助成制度により、ほぼ無償で今日治療を受けることが出来る様になりました。誠に有難い限りです。「透析患者の命と暮らしを守る」ことは東腎協の使命であることを忘れず、これからも患者会運動を進めてまいりたいと思います。（古暮）

○私が透析を始めた病院の有志で患者会を作ったのが25年前でした。その後自宅近くの病院に転院しました。3名程の患者会がありましたが、院長に患者会を残して欲しいと言われ患者会を引き受けました。その時に、全腎協や東腎協の有意義な活動や刊行誌などを患者さんに届けたいと思い、東腎協の活動に参加させて頂きました。

これからも、出来るだけ多くの患者さんに、有意義な情報を届けられる様に活動をしていきたいと思っています。（酒井）

○東腎協50周年、本当にうれしく思います。

この50年の間にたくさんの出会いと別れ、たくさんの喜びと悲しみがありました。ひとつ思い出したら止まらなくなる程たくさんの思い出もあります。設立当初の役員のみなさん、会員のみなさんが、患者自身が運営し続け50年続いていると知ったら、どんなに喜ぶ事でしょう。これからも困難な事、楽しい事がたくさんあると思いますが、みなさんと一緒に続けて行きたいと思います。（須賀）

○東腎協結成50周年おめでとうございます。それを記念しての記念誌「あゆみ」が刊行されましたことは誠に感慨深いことと思います。

私個人としては、編集委員に名を連ねていながらほとんどお手伝いできなく参加するだけでしたのを申し訳なく思っております。そして、苦労の賜物である記念誌「あゆみ」が完成いたしました。皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。（野口）

○約3年に渡る世界的なコロナの影響下、極力人との接触を避けなければならない日常生活を強いられて来ました。医療の現場が逼迫する中、行政や政策の混沌も度々報道されて来ました。こんな中、50年にわたる患者会記念事業が昨年度秋、無事執り行われ、「記念誌」も関係各位のご協力のもと無事発行される運びとなりました。50年約半世紀を引き継ぎ、今後も我々透析患者のみならず全ての医療体制が益々充実していきます様、微力ながら社会と関わり、行政と関わり、明るく前進して参りたいと存じます。（丸山）

○東腎協は50周年記念行事も無事終わり、２０２３年より新

たな50年に向かってスタートしました。これからは色々な問題多き時代に入って行かなければいけません。

それ故に、今までと違う方向を全会員の皆様と探して行きたいと思います。夢を見て計画を作り実行しよう！　（成田）

◎平山腎友会は２０１８年４月18日で結成５年を迎え、私も３月10日の誕生日に透析５年目を迎えます。東腎協結成50周年に際し、その歴史の重みを感じます。

昨年10月18日、東腎協元会長の糸賀久夫さんが73歳で逝去されたと知り、家族でその人生に想いを馳せました。私と同じ年です。今充実した透析生活を送れるのも諸先輩の努力の賜物と深謝いたします。　（岡田）

◎記念誌には東腎協歴代の会長さんのお名前が記載されていますが、その他にも多くの役員さん、病院患者会の役員さんや会員さん、ご家族の皆様の地道な活動が東腎協を支えてきたことを改めて感じました。

50年を振り返ると「必要な時にだれもが治療を受けられる」療養環境はしっかり守られ、透析機材や薬剤は目覚ましく進歩しました。一方患者の高齢化を背景に終末期医療や介護支援についてさらなる議論と取り組みが求められます。

これらの課題を解決し誰もが笑顔で暮らせる未来を創るために、患者会活動の灯を消すことはできません。これからも微力ながら東腎協の活動に取り組んでいきたいと思います。　（金子）

◎50年前苦労して東腎協を起ち上げられた先輩たちの思いを引き継ぎ、これからも東腎協を発展させて行きたいと思っています。

私はまだ透析歴６年の新参者ですが、東腎協が出来た経緯を当時、副会長の榊原さんからお話を伺い、とても大変な命懸けの闘いで道を切り拓いてきた事を教えて頂いていた矢先に榊原さんが亡くなり、とても残念でなりません。

今の透析環境を維持するためにも、「数こそ力なり」の気持ちを今一度、皆さんと共有して参りたいと思います。　（長澤）

◎昨年６月に脳出血で倒れ入院、リハビリをして10月24日に退院してきました。右半身麻痺になり右手・右足がちょっと不自由になりました。理事をお休みさせて頂き50周年行事にも参加出来なくて残念でしたが、１月の理事会より復帰しました。

こんな体で出来る事は少ないかもしれませんが、東腎協を守るためにも精一杯努力させて頂きます。　（三好）

◎50周年に際し、多くの諸先輩方が腎臓病に関する普及啓発、医療体制の充実・向上を目指し活動されてこられましたことに心から感謝したいと思います。

透析患者の国・都の制度の恩恵を受け、医療の進歩や関連機関の支援をいただき、こうして元気に日常生活を送れていること、６月からは理事として、皆様と共に様々な課題解決に取り組んでいくこと〝一人の人間として、一人の社会人として〟精一杯自分自身の責務を果たしていきたいと思います。　（須藤）

◎透析を始めて26年。ずっと安心して過せました。これも「命と暮しを守る」活動にご尽力下さった大先輩方と、それを守り続けてきた「東腎協」のお陰と心より感謝しています。

４年前より理事として関わらせて頂きましたが、コロナの為に活動が狭められお役に立てていません。これからは活動が難しい中でも「東腎協」を衰退させず患者会や会員様のお力になりたいと思っています。　（横溝）

○東腎協50周年おめでとうございます。50年前苦労して東腎協を起ち上げられた先輩たちの思いを引き継ぎ、これからも東腎協を発展させて行きたいと思っています。色々と困難な時ですが、一緒に頑張っていきましょう。（松本）

○50年誌「あゆみ」が完成しました。自分も出来るのを楽しみにしていましたが、皆さんはどう感じられたでしょうか。皆さんのご協力があって出来上がった冊子です。あらためてお礼を申し上げます。

この10年でたくさん楽しいことや辛い事がありました。またこの先どうなっていくかわかりませんが、60年誌が出るまで元気でいられますように。（小林）

○私は2013年から東腎協にお世話になり10年経目になります。時間の流れが速いなぁと実感しています。

事務局にいると毎日が勉強になることばかりでした。それは10年経っても変わりません。役不足感満載ですが、私ができる範囲で頑張りますので東腎協の皆様、ご指導のほどよろしくお願いいたします。毎度のことですが、編集後記の文章を考えるのが、文才がない私にとっては大変です。（笑）（松山）

○私はオブザーバー1年間を経て昨年から理事になりました。

私の思いは東腎協の役員として少しでも力になればとのことでした。会員数は年々減少傾向の経緯をたどる現在です。

私のクリニックでは院長と患者会の意志疎通が殆どありません。看護師長をはじめ一部のスタッフは非常に協力的ですが、東腎協の啓蒙活動には至っていません。まず、患者会と病院長との信頼関係を作ることが、第一歩になるのではないかと思います。（大友）

○新江東橋クリニックの腎友会に入会したその日から、会計を頼まれて27年間腎友会の役員をやってきました。

ここまで来れたのも東腎協及び各腎友会、個人会員のおかげです。ここに来て頸椎損傷が酷くなりそろそろ新しい役員さんに頑張ってもらいたいとお思います。（金井）

「あゆみ」の編集を終えて

編集委員長　板橋俊司

どうにか50周年の年度内に発行することができ、会員の皆様や関係各位にお届けすることが出来ました。これも編集委員、理事の皆さんのご協力の賜物と感謝しています。また祝辞をお寄せいただいた先生方には、お忙しい中でのご協力に深く感謝申し上げます。

「60年誌」に向けて、新しい患者会活動が始まることを祈念して、50年誌「あゆみ」発行の御礼とご挨拶とします。有難うございました。

編集委員

板橋　俊司 | 戸倉　振一 | 古暮　宏 | 酒井　豊 | 須賀　春美
野口　忠男 | 丸山　春良 | 成田　哲也 | 岡田　和友 | 金子　智
（敬称略）

あゆみ―東腎協の50年―

■発行人　特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会
〒157―0073　東京都世田谷区祖師谷３―１―17―102
■編集人　特定非営利活動法人　東京腎臓病協議会（ＮＰＯ東腎協）
〒170―0005　東京都豊島区南大塚２―40―11　富士大塚ビル２Ｆ
TEL　03―3944―4048
FAX　03―5940―9556
■発行日　2023年３月14日

印刷所　あかつき印刷株式会社

SSK 1971年6月17日　第三種郵便物認可 2023年3月14日発行〈毎月6回1の日・6の日発行〉SSK増刊通巻5864号

発行人
特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区祖師谷3-1-17-102

編集人
特定非営利活動法人 東京腎臓病協議会（NPO 東腎協）
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-40-11 富士大塚ビル2F
TEL 03-3944-4048　FAX 03-5940-9556
http://www.toujin.jp　E-mail：info@toujin.jp